80SP-0102-3

日本語MS-DOS®

OAK 操作ガイド（日本語入力の手引き）

FM Rシリーズ，FM NoteBook，FM TOWNS

FUJITSU

FM R シリーズ, FM NoteBook, FM TOWNS

OAK操作ガイド
(日本語入力の手引き)

富士通株式会社

ごあいさつ

このたびは、弊社の「日本語MS-DOS®V5.0（基本機能）」をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。
本書は、「日本語MS-DOS®V5.0（基本機能）」に添付している“OAK(OASYSかな漢字変換機能）”の使いかたについて説明しています。
なお、本書では「日本語MS-DOS®V5.0」をMS-DOSと記述します。
本書が皆様のお役に立つことを願っております。

1992年11月

マニュアルの読みかた

OAK操作ガイド（日本語入力の手引き）(本書）は、OAKを操作する際のキーボードの使いかたを説明したマニュアルです。本書を含めてMS-DOSには、下記のマニュアルがあります。目的や利用経験に合わせてお読みください。

MS-DOSのマニュアルと本書の位置づけ

■「日本語MS-DOS®V5.0（基本機能）」に添付のマニュアル

日本語MS-DOS®V5.0セットアップガイド

MS-DOSをハードディスクにインストールする手順を説明しているマニュアルです。MS-DOSのインストールディスク中に用意されているコマンド「SETUP」を使ってインストールするときにお読みください。

日本語MS-DOS®V5.0ファーストステップガイド

MS-DOSシェルを操作される方は、このマニュアルで操作を覚えてください。実際にMS-DOSシェル（コマンドを入力せずに、マウスやキーボードで操作を行います）を使って、MS-DOSの基本的な操作を説明しています。

日本語MS-DOS®V5.0ユーザーズガイド

MS-DOSの入門書です。MS-DOSを使う上で知っておいていただきたいファイルやディレクトリなどの基礎知識、MS-DOSの便利な機能や、MS-DOSシェルについて説明しています。MS-DOSを初めて使う方は、このマニュアルをお読みください。

日本語MS-DOS®V5.0ユーザーズリファレンス

MS-DOSのコマンドやユーティリティの機能と使いかたをリファレンス形式で解説しているマニュアルです。CONFIG.SYS内に指定するデバイスドライバ、プログラミングユーティリティ、テキストファイルを編集できるエディタについても説明しています。

OAK操作ガイド（日本語入力の手引き）

MS-DOSでOAK(OASYSかな漢字変換機能)を使っているときのキーボードの使いかたを説明しています。英字・ひらがな・カタカナ・漢字・記号などの入力方法、OAKの環境設定を行うときにお読みください。

■「日本語MS-DOS®V5.0（拡張機能）」に添付のマニュアル

日本語MS-DOS®V5.0アドバンストガイド

　MS-DOSについて既に知識のある方が、ご自分で使っているMS-DOSの設定を自分にあったものにしたいときに読んでいただきたいマニュアルです。MS-DOSの構造やシステムのカスタマイズ、MS-DOSの過去からのバージョンについて説明しています。

日本語MS-DOS®V5.0プログラム開発ツールリファレンス

　プログラムを作成される方のために、リンカやシンボリックデバッガなどの開発ツールの使いかたについて説明しています。

日本語MS-DOS®V5.0プログラマーズリファレンス

　プログラムを作成される方のために、システムコールの使用方法などの技術的な情報を提供しています。

NBメニュー／NBツール操作ガイド

　よく使うMS-DOSのコマンドをメニュー形式で実行できるNBメニューと、システム手帳のように使えるNBツールの操作方法について説明しています。

参考

ソフトウェア説明書について

　ソフトウェア説明書は、マニュアル以外の留意事項や参考となる情報が記載されています。「README.DOC」というファイル名で提供しています。

　MS-DOSを起動してプロンプトが表示されている状態で、次のように入力してください。

・ディスプレイに表示する場合

　MORE < README.DOC [↵]

・プリンタに出力する場合

　PRINT README.DOC [↵]

本書の読みかた

本書『OAK操作ガイド（日本語入力の手引き）』は、キーボードからいろいろな文字を入力する方法について説明しています。

タイトル	内容・読み方
1章 OAKの概要	OAKの基本的なことについて説明しています。OAKを使い始める前には、必ずお読みください。
2章 文字の入力	いろいろな文字の入力をリファレンス形式で説明しています。あなたの入力したい文字の入力方法がわからなくなったときにお読みください。
3章 辞書の利用	OAKで文字を入力する際に大切な「辞書」について説明しています。 必要に応じてお読みください。
4章 OAKの環境の設定	OAKの環境について説明しています。 必要に応じてお読みください。
付録 付-1文字入力のまとめ 付-2キー操作一覧 付-3入力状態の移り変わり（親指シフトキーボード） 付-4入力状態の移り変わり（JISキーボード） 付-5ローマ字／かな対応表 付-6部首の読み 付-7記号とギリシア文字の読み 付-8漢字辞書を使って入力する記号の読み	付-1から4までは、キーボードの使いかたを簡潔にまとめています。5はローマ字入力をするときの文字の読みかたを一覧表にしてあります。6は漢字を部首から入力するときの読み、7、8は記号やギリシア文字を入力するときの読みをまとめてあります。 必要なときにお使いください。

キー、キーボードの表記

本文中のキーの表記は、キーに書かれている文字を全部書くと分かりにくいので、説明に必要な文字だけを表記してあります。
例えば、「み」と入力したいとき、実際のキーでは [み は H] （JISキーボードでは [N み] ）となっていますが、 [み] と表記します。
また、本文中のキーボードの図については、機種によってキーの位置が多少違うものもありますのでご注意ください。

本文中のマークについて

本文中にいくつかのマークを使用しています。それらの意味を以下に示します。

……知っていると便利なことが書いてあります。

……注意していただきたいことが書いてあります。

……操作がうまくいかなかったときに参考になることが書いてあります。

➜ ……参照先を示します。

CONTENTS

OAKの概要

ＯＡＫとは何か、どのような機能があるのか、どんな文字が入力できるか、また、ＯＡＫを使うための準備操作について説明しています。

1-1 ＯＡＫとは

OAKは、MS-DOS上で日本語を入力するためのソフトウェアです。
OAKは、弊社の日本語ワードプロセッサ“OASYS”の技術を活かして、より手軽で使いやすい日本語文字の入力方法を実現しました。これにより、OASYSとほぼ同様の操作で日本語が入力できるようになっています。
OAKには、「かな漢字変換機能」を中心として、次のような機能があります。

■ かな漢字変換機能

漢字を入力する際にその読みをひらがなで入力し、漢字に変換することを「かな漢字変換」といいます。例えば、「海」という漢字を入力したいときには、キーボードから、ひらがなで「うみ」と入力して、それを「海」に変換します。

うみ → 海

また、日本語では読みかたが同じで意味の違うことば（同音異義語）がたくさんあります。OAKでは［変換］キーを使って、同音異義語の表示や選択ができます。

うみ → 海
かわ → 川 → 河 → 革 ……

かな漢字変換機能には、辞書が必要となります。辞書には、読みを漢字に変換させるための情報が記録されています。

➔２章　2-5.　「かな漢字変換で漢字を入力する」（P.27）

■ 複文節変換機能

日本語の文章は、通常、いくつかの文節から構成されています。そこで、いくつかの文節の読みをひらがなで入力して、一括で漢字に変換する機能があります。これを複文節変換機能といいます。
例えば、「私は海外旅行をしたい」という文章を入力したいときには、

わたしはかいがいりょこうをしたい → 私は海外旅行をしたい

というように、複数の文節からなるひらがなを一括で変換することができます。

➔２章　2-5.　「複文節変換で漢字を入力する」（P.31）

■ 辞書の学習機能

OAKの辞書には、使いやすくするための学習機能がついています。学習機能には、優先順位学習と文節区切り学習があります。

●優先順位学習

日本語には、読みかたが同じで意味の違うことば（同音異義語）がたくさんあります。OAKでは、同じ読みかたに対応する漢字が2つ以上ある場合には、最後に使用した漢字から順番に表示されます。
例えば、「いとう」という読みは、「伊藤」、「伊東」、「以東」、「厭う」等と変換できます。「伊東に住んでいる伊藤さん」を表示させた後に、「いとう」を入力して変換したときには最後に使った「伊藤」が表示されます。もう一度 [変換] キーを押すと、その前に使った「伊東」が表示されます。

いとう → 伊藤 → 伊東 → 以東 → 厭う

このような優先順位学習機能によって、よく使うことばが先に表示されるようになり、辞書は大変使いやすくなります。

●文節区切り学習

複文節変換では、文節をどのように分割するかで、変換結果が大きく変わってきます。文節区切り学習は、複文節変換をしている場合、同一の読みに対して同じ変換の誤りを起こさないように学習する機能です。

わたしはいしゃです → 私は医者です
私歯医者です

■ 漢字辞書機能

日常よく使う漢字は、かな漢字変換機能や複文節変換機能を使って入力することができますが、これらの機能で得られない漢字については、漢字辞書機能を用いて入力することができます。漢字辞書機能では、音読み・訓読み・部首・画数などで漢字を入力することができます。

➔2章　2-6.　「漢字の入力(2) —— 漢字辞書」（P.36）

■ その他の便利な変換機能

OAKには、漢数字や数詞、また記号やギリシア文字を入力することもできます。

●漢数字変換機能

全角文字の数字を入力してそれを漢数字に変換することができます。

１２３４　→　千二百三十四

➔２章　2-7.　「数字の入力 ―― 数字・漢数字・数詞付数字」（P.42）

●数詞付き変換

数詞（漢字の前や後ろについて単位などを表す語）を付けて数字を入力することができます。

だい３２かい　→　第３２回

➔２章　2-7.　「数字の入力 ―― 数字・漢数字・数詞付数字」（P.42）

●記号やギリシア文字の入力機能

記号やギリシア文字に付けられた読みや、漢字辞書機能を利用して、記号やギリシア文字を入力することもできます。

ほし　→　★
あるふぁ　→　α

➔２章　2-8.　「キーに書かれていない記号とギリシア文字の入力」（P.48）

■ 区点コード入力

漢字には、それぞれ固有の区点コードがついています。この区点コードを用いて、漢字を入力することもできます。

区１６０１　→　亜

➔２章　2-9.　「区点コード入力」（P.51）

■ 単語登録・単語抹消

単語登録とは、よく使う固有名詞や特定の単語・文章等に簡単な読みを付けて辞書に登録する機能です。単語抹消とは、登録した単語や文章等、辞書の中の不要な単語を抹消する機能です。単語登録や単語抹消により、自分が使いやすい辞書を作ることができます。

きしゃ　→　貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます

➔2章　2-11.　「単語登録と単語抹消」(P.55)

■ ローマ字かな変換機能

ローマ字かな変換とは、ひらがな・カタカナをローマ字で表して入力し、それらをひらがな・カタカナに変換する機能のことです。たとえば、「YAMA」を入力すると、画面には「やま」と表示されます。

ＹＡＭＡ　→　やま

すでにアルファベットのキーの位置を覚えている方は、このローマ字かな変換機能を使えば、アルファベットのキーでひらがなやかたかなを入力することができます。

➔2章　2-3.　「ローマ字かな変換でかなを入力する」(P.22)

■ ＯＡＫの３つの辞書

OAKは単語辞書、漢字辞書、ユーザ辞書の３つの辞書を使っています。

これらの辞書は次のような役割をもっています。

単語辞書……かな漢字変換機能
　　　　　　複文節変換機能
漢字辞書……漢字辞書機能
　　　　　　読み・漢字・部首などで漢字に変換
　　　　　　区点コード入力
ユーザ辞書…単語登録・単語抹消
　　　　　　辞書の学習機能

参考

前記３つの辞書はFMNoteBook以外の機種では、OASYS.DICファイルに入っています。FMNoteBookでは単語辞書・漢字辞書は本体内のROM辞書に、ユーザ辞書はOAKUSR.DICファイルに入っています。

1-2 FMNoteBookで OAKを使うための準備

OAKでかな漢字変換機能や漢字辞書機能を使う場合には辞書が必要となります。辞書には、読み・画数・部首などから漢字に変換するための情報が記録されています。
ここではOAKの辞書機能を紹介し、FMNoteBookでOAKを使うための準備作業を説明します。

FMNoteBookのOAKの３つの辞書

FMNoteBookのOAKの辞書には、単語辞書、漢字辞書、ユーザ辞書の３つの辞書があります。
単語辞書………かな漢字変換で、読みを漢字に変換します。
漢字辞書………読み・画数・部首などで漢字が入力できるようにします。
ユーザ辞書……単語登録や辞書の学習機能が使えるようにします。

参考

FMNoteBookの単語辞書、漢字辞書は本体内にROM辞書として入っています。ユーザ辞書はあらかじめ本体内メモリに読み込んでおく必要があります。

FMNoteBookでOAKを使うための準備をする

OAKを使うためには、ユーザ辞書(OAKUSR.DIC)をFMNoteBook本体内のメモリに読み込まなければいけません。
FMNoteBookを購入した直後は、必ずこの作業が必要です。
また、長時間FMNoteBookを使用しなかったときなどは、FMNoteBook本体内のユーザ辞書が消えている場合があります。辞書メンテナンスユーティリティ(DICUTY.EXE)を使って、ユーザ辞書(OAKUSR.DIC)の読み込みを行う必要があります。
その場合は、次のように操作してください。

1 MS-DOSを起動する

MS-DOSを起動すると、次の画面が表示されます。
ここでは、システム起動後のドライブはＣドライブとして説明します。

```
日本語ＭＳ－ＤＯＳ　Ｖ５．０　Ｌ××

  MS-DOS version X.XX
  Copyright (C) Microsoft Corp XXXX
  Copyright (C) FUJITSU LIMITED XXXX

  辞書が初期化されていません.
  辞書メンテナンスユーティリティ(DICUTY)を使って辞書の初期化を行い,
  もう一度起動してください.
  詳細は「ＯＡＫ操作ガイド」を参照してください.

  Command version X.XX

  C>_
```

2 コマンドを入力する

DICUTY.EXE及びOAKUSR.DICが入っているドライブ、ディレクトリに移ります。ここでは、ＤドライブのBINディレクトリにDICUTY.EXEとOAKUSR.DICが入っているとして説明します。

```
C>D:
D>CD BIN
D>DICUTY + OAKUSR.DIC
  ＯＡＫ辞書メンテナンスユーティリティ［Ｖ×．××］
  DICUTY COPYRIGHT FUJITSU LIMITED 19XX-19XX

  辞書初期化機能（辞書転送：FILE→RAM)
  ※転送先辞書内の登録単語，および学習情報が失われます.
  ※"－"オプションによってRAM辞書をファイルに保存することが出来ます.
  辞書ファイル OAKUSR.DIC

  処理を開始します． [y/n]_
```

3 [Y] キーを選ぶ

[Y] キーを押すと辞書の読み込みが始まります。

読み込みが終わると、「終了しました」というメッセージが表示されます。

4 MS-DOSを再起動する

REIPLコマンドでMS-DOSを再起動します(または、本体のRESETボタンを押します)。

これでOAKを使うための準備ができました。

この操作によってメモリに読み込まれた辞書の内容は、電源を切っても保存されるようになっています。この準備は、OAKを使いはじめる前に一度だけ操作すればよいというわけです。

なお、辞書メンテナンスユーティリティ(DICUTY.EXE)の詳しい操作方法については、「3章　3-4.　辞書メンテナンスユーティリティ」(P.75)を参照してください。

FMNoteBookでは、辞書をフロッピィディスクやハードディスク、ICメモリカードに入れて使うことはできません。

1-3 ＯＡＫの文字入力について

ここでは、OAKを使って入力できる文字の種類と、文字を入力する際に重要な入力状態について説明します。

入力できる文字の種類

入力できる文字の種類とその例を示します。

文字の種類	半角文字	全角文字
英小文字	abcde	ａｂｃｄｅ
英大文字	ABCDE	ＡＢＣＤＥ
カタカナ	ｱｲｳｴｵ	アイウエオ
ひらがな	―	あいうえお
漢　　字	―	海星花雪月
数　　字	12345	１２３４５
記　　号	!"#$%	！”＃＄％

英小文字、英大文字、カタカナ、数字などは、半角文字でも全角文字でも表示されます。半角文字でも全角文字でも、人間にとっては同じ文字ですが、MS-DOSではこれらを別の文字として判断します。
例えば、ファイル名を示す場合、半角文字で表現した「file」と全角文字で表現した「ｆｉｌｅ」は、MS-DOSでは別のファイルとして扱われます。

●半角文字

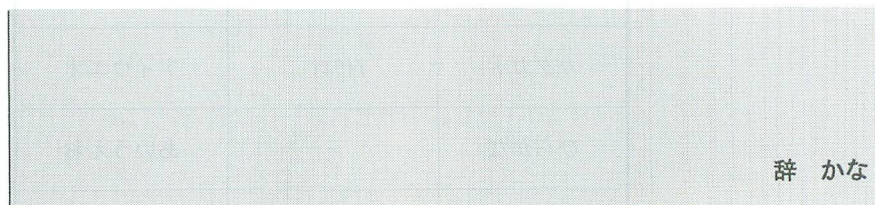
MS-DOSのコマンドを入力するときには、半角文字を使います。
半角文字は、前の表からもわかるように全角文字の半分の幅の文字です。
半角で表すことのできる文字は、英小文字、英大文字、カタカナ、数字、記号の一部です。ひらがなや漢字には半角文字はありません。

●全角文字

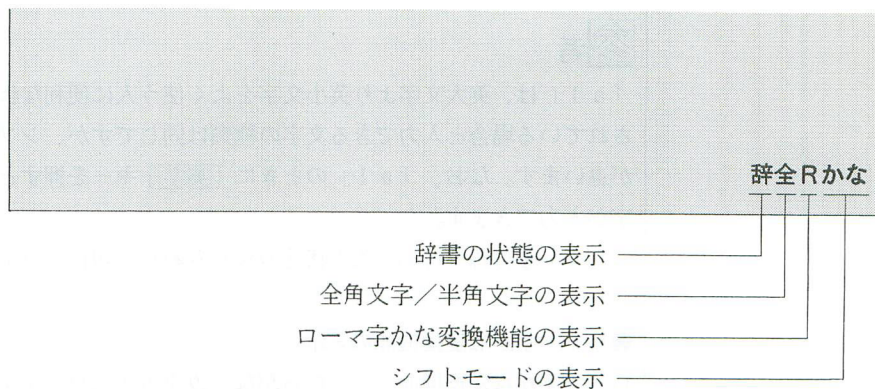
全角文字は、前の表からもわかるように半角文字の2倍の幅の文字です。また、ファイル名などの入力の際には、半角文字2文字分として扱われます。

文字を入力するには

キーボードには、1つのキーにいくつかの文字が書いてあります。どのようにすればそれぞれの文字を入力できるのでしょうか。
MS-DOSを起動すると画面の右下に「英小」「かな」などと表示されています。これは、キーを押したときにどの種類の文字を入力できるか等、キー入力に関する状態を示しています。これをOAKの入力状態といいます。

辞　かな

上の図の「かな」の表示は、ひらがなが入力できることを表します。
例えば、この状態で親指シフトキーボードの [を う A] を押すと、パソコンの画面には「う」と表示されます。また、「英小」にして同じキーを押すと、今度は「a」と表示されます。
このように、入力状態を変えることによって、1つのキーで違う種類の文字が入力できます。

OAKの入力状態

ここでは、入力状態にはどんなものがあり、それぞれの表示がどんな意味を持っているかを説明します。
OAKの入力状態は、画面右下に次のように表示されます。

OAKの入力状態には、次のものがあります。

- **シフトモード**
  キーを押して入力できる文字が、英大文字、英小文字、ひらがな、カタカナのどれであるかを示します。
- **ローマ字かな変換機能**
  ひらがなやカタカナを入力するとき、キーに書かれている文字を直接入力するか、ローマ字で入力するかを示します。
- **全角文字／半角文字**
  キーを押して入力できる文字が、全角文字か半角文字かを示します。
- **辞書の状態**
  漢字を入力できる状態かどうかを示します。
  また、FMNoteBook以外の機種では、辞書を複写できる状態か、また、漢字入力のための辞書が入っているフロッピィディスクをディスクドライブから抜き取ってよいかどうかを示します。

それぞれの状態について詳しく説明します。

■ シフトモードの表示

シフトモードには、「英大」「英小」「かな」「カナ」「ａｌ」「ＡＬ」があります。

「英小」が表示されているとき…英小文字が入力できます。
「英大」が表示されているとき…英大文字が入力できます。
「かな」が表示されているとき…ひらがな（カタカナ）、漢字が入力できます。
「カナ」が表示されているとき…カタカナが入力できます。
「ａｌ」が表示されているとき…英小文字が入力できます（親指シフトキーボードの場合のみ）。
「ＡＬ」が表示されているとき…英大文字が入力できます（親指シフトキーボードの場合のみ）。

参考

「ａ１」は、英大文字より英小文字をよく使う人に便利な状態です。「英小」と表示されている場合と入力できる文字の種類は同じですが、シフトモードの切り換えかたが違います。なお、「ａ１」のときに 英字 キーを押すと「ＡＬ」となり、英大文字が入力できます。

➔付録　付-3「入力状態の移り変わり（親指シフトキーボード）」（P.99）

●ローマ字かな変換機能の表示

ローマ字かな変換機能とは、ひらがな、カタカナをローマ字で表して入力し、それをひらがな、カタカナに変換する機能のことです。画面に「Ｒ」の表示があるときは、この方法でひらがな、カタカナが入力できることを示しています。

「Ｒ」が表示されているとき……ローマ字で入力します。
「Ｒ」が表示されていないとき…キーに書かれている文字を直接入力します。

●全角文字／半角文字の表示

全角文字と半角文字のどちらが入力できるかを示します。

「全」が表示されているとき……全角文字が入力できます。
「全」が表示されていないとき…半角文字が入力できます。

参考

ひらがなと漢字は、全角文字しかありませんので「全」の表示がない場合でも、全角文字が入力されます。

●辞書の状態の表示

「辞」の表示は、辞書を使用しているかどうか、つまり漢字を入力できるかどうかを示します。

「辞」と表示されているとき……漢字を入力できます。FMNoteBook以外の機種では、辞書を複写したり、辞書の入ったフロッピィディスクを抜き取ってはいけません。
「辞」と表示されていないとき…漢字を入力できません。FMNoteBook以外の機種では、辞書を複写したり、辞書の入ったフロッピィディスクを抜き取ってもかまいません。

文字の入力

いろいろな文字（英字、ひらがな、カタカナ、漢字、数字、記号）の入力方法、かな漢字変換機能、漢字辞書機能などについて説明しています。
文字入力方法が分からなくなったときにお読みください。

2-1 ＯＡＫを使うにあたって

OAKを使うにあたって、知っておいていただきたいことについてまとめています。

■ かな漢字変換ができる状態にする

OAKでは、かな漢字変換機能や漢字辞書機能を使うときに、かな漢字変換ができる状態になっていなければいけません。かな漢字変換ができる状態にするには、［かな漢字］キーを押して、画面の下に「辞」と表示します。全角文字の入力、かな漢字変換機能や漢字辞書機能を使う前には、画面に「辞」と表示されているかどうか確認してください。

なお、かな漢字変換機能や漢字辞書機能を使わない場合には、［かな漢字］キーを押して画面の下の「辞」の表示を消し、かな漢字変換ができない状態にして使用してください。

■ 入力状態を決める

キーボードからどの文字が入力できるかは、画面の一番下の入力状態の表示によって決まります。文字を入力するには、まず入力状態を決めます。

それぞれの入力状態で、次のような文字が入力できます。

「英小」……英小文字が入力できます。

「英大」……英大文字が入力できます。

「かな」……ひらがな、カタカナ、漢字が入力できます。

「カナ」……カタカナが入力できます。

「ａｌ」……英小文字が入力できます（親指シフトキーボードのみ）。

「ＡＬ」……英大文字が入力できます（親指シフトキーボードのみ）。

2-2 英字の入力

英字には英小文字と英大文字があります。英小文字を入力する場合は「英小」、英大文字を入力する場合は「英大」の入力状態にします。ここでは2つの英字の入力方法を、親指シフトキーボードとJISキーボードに分けて説明します。なお、FMNoteBookでは、文字キー以外のキーの並びかたが多少異なりますが、文字の入力方法は同じです。

親指シフトキーボードで英字を入力する

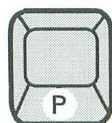
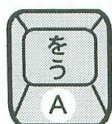
英字を入力する場合は、入力状態を「英小」または「英大」にします。
英小文字を入力するときは、入力状態を「英小」にします。「英小」にするには、
[英字] キーを押して「英大」にしてから、 [英小文字] キーを押します。
英大文字を入力するときは、入力状態を「英大」にします。「英大」にするには、
[英字] キーを押します。

参考

英字を入力するには、「英小」「英大」の他に、「ａｌ」「ＡＬ」（ａｌ状態）があります。英小文字を多く使う場合は、ａｌ状態にしておくと便利です。ａｌ状態では、
[英字] キーを押すと、入力状態が「ａｌ」となって英小文字が入力できます。
「ａｌ」のときに [英字] キーを押すと、「ＡＬ」となって英大文字が入力できます。
標準の状態（「英小」「英大」）とａｌ状態（「ａｌ」「ＡＬ」）を切り替えるには、
[ＣＴＲＬ] キー押しながら [英小文字] キーを押します。

入力状態の表示が「英小」または「英大」のときは、各キーの手前側面（FMNoteBookの場合は左下）に書いてある文字と数字が入力できます（ただし、半濁音は除く）。
ここでは、入力状態が「英小」の場合を例に説明します。

●そのまま押すと、各キーの手前側面に書かれている英字が入力できます。

● SHIFT キーを押しながら入力すると、その文字だけが英大文字で入力できます。

参考
英大文字を入力している場合、 SHIFT キーを押しながら英字を入力すると、その文字だけが英小文字になります。

JISキーボードで英字を入力する

英字を入力する場合は、入力状態を「英小」または「英大」にします。

「かな」のとき………… ひらがな キーを押す
「英小」と「英大」の切り換えは CAP キーを押す

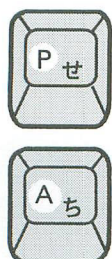
「カナ」のとき………… カタカナ キーを押す
「英小」と「英大」の切り換えは CAP キーを押す

「英小」と「英大」…… CAP キーを押す
を切り換える

入力状態の表示が「英小」または「英大」のときは、各キーの左半分に書いてある文字が入力できます。
ここでは、入力状態が「英小」の場合を例に説明します。

●そのまま押すと、各キーの上面の左側にかかれている英字が入力できます。

● SHIFT キーを押しながら入力すると、その文字だけが英大文字で入力できます。

参考

英大文字を入力している場合、 SHIFT キーを押しながら英字を入力すると、その文字だけが英小文字になります。

2-3 ひらがなの入力

キーボードからひらがなを入力する場合は、かなを入力したあと、［無変換］キーを使って文字を確定します。

例えば、キーボードから「おはよう」と入力します。

```
A>おはよう█

                                                  辞　かな
```

ここで［無変換］キーを押します。
次の文字の入力を始めると「おはよう」が確定します。

```
A>おはよう█

                                                  辞　かな
```

参考
連続して入力できるひらがなは40文字以内です。それ以上は入力できません。

また、ひらがなの入力方法は2つあります。かなで入力する場合と、ローマ字で入力する場合です。ここではそれぞれのキーボードを使った、かなの入力方法とローマ字かな変換のしかたについて説明します。なお、FMNoteBookでは、文字キー以外のキーの並びかたが多少異なりますが、文字の入力方法は同じです。

親指シフトキーボードでかなを入力する

ひらがなを入力する場合は、入力キー状態を「かな」にします。
「かな」にするには、［無変換］キーを押します。

参考

ひらがなは全角文字しかありませんので、「全」と表示されていなくても、全角文字が入力されます。

●そのまま押すと、各キーの下段のひらがなが入力できます。

。かたこさらちくつ，、
うしてけせはときいん
．ひすふへめそねほ

●文字キーと同じ側の親指キーを同時に押すと、各キーの上段の文字が入力できます。

ぁえりゃれよにるまぇ
をあなゅもみおのょっ
ぅーろやぃぬゆむわぉ
親指左 親指右

〔親指左 キーと同時に押す〕 〔親指右 キーと同時に押す〕

●濁音（がぎぐげご等）は、文字キーと左右反対側の親指キーを同時に押すと入力できます。

がだござぢぐづ
ゔじでげぜばどぎ
びずぶべぞぼ゛
親指左 親指右

〔親指右 キーと同時に押す〕 〔親指左 キーと同時に押す〕

●半濁音（ぱぴぷぺぽ）は、文字キーと［親指左］キーを同時に押すと入力できます。
また長音は［親指左］キーと［ひ］キーを同時に押してください。

また、半濁音（ぱぴぷぺぽ）は、［ＳＨＩＦＴ］キーを押しながら文字キー（はひふへほ）を押しても入力できます。

JISキーボードでかなを入力する

ひらがなを入力する場合は、入力状態を「かな」にします。
「かな」にするには、［ひらがな］キーを押してください。

参考

ひらがなは全角文字しかありませんので、「全」と表示されていなくても、全角文字が入力されます。

●そのまま押すと、各キーの右下に書いてある文字が入力できます。

P せ

あ
3 あ

ぬ ふ あ う え お や ゆ よ わ ほ へ
た て い す か ん な に ら せ
ち と し は き く ま の り れ け む
つ さ そ ひ こ み も ね る め ろ

● [SHIFT] キーを押しながらキーを押すと、キーの右上に書いてある文字が入力できます。

ぁ
3 あ

Z っ
っ

ぁ ぅ ぇ ぉ ゃ ゅ ょ を
ぃ
SHIFT っ 、 。 SHIFT

●濁音（がぎぐげご等）、半濁音（ぱぴぷぺぽ）は、文字キーに続いて [゛]（濁音）キーまたは [゜]（半濁音）キーを押して入力します。また、長音は [ー] キーを押して入力します。

濁音　半濁音　長音

ローマ字かな変換でかなを入力する

ローマ字かな変換で入力する場合は、入力状態を「Rかな」にします。

1 「R」を表示する

・親指シフトキーボードのとき

[CTRL] キーを押しながら [英字] キーを押します。

・JISキーボードのとき

[CTRL] キーを押しながら [ひらがな] キーを押します。

2 入力状態を「かな」にする

・親指シフトキーボードのとき

[無変換] キーまたは [変換] キーを押します。

・JISキーボードのとき

[ひらがな] キーを押します。

ローマ字かな変換を使い終わったときは、再び**1**の操作をしてください。画面の右下の「R」の表示が消えます。

なお、ローマ字がかなに変換されるまでは、カーソル位置に入力したローマ字が表示されます。

ローマ字かな変換をするときのローマ字のつづりについては、「付録　付-5. ローマ字／かな対応表」(P. 106) を参照してください。

例えば「か」と入力してみます。

1 入力状態を「Rかな」にする

前記の手順に従って、入力状態を「Rかな」にします。

2 [K] キーを押す

[K] キーを押します。ローマ字がひらがなに変換されるまで、入力したローマ字はカーソル位置に表示されます（この場合「K」）。

```
A>K█


                                         辞　Rかな
```

3 [A] キーを押す

[A] キーを押します。カーソルの位置に「か」と表示されます。

```
A>か█
```

ローマ字かな変換で、ローマ字のスペルを間違えたときは，[取消] キーを押して、もう一度入力し直してください。

2-4 カタカナの入力

カタカナの入力方法には、入力状態を「カナ」にして入力する方法と、ひらがなを入力してカタカナに変換する「かなカタカナ変換」があります。この２つの入力方法について、それぞれ説明します。

入力状態を「カナ」にしてカタカナを入力する

入力状態を「カナ」にして、カタカナを入力する方法を説明します。

入力状態を「カナ」にするには、以下のようにします。

・親指シフトキーボードの場合

[無変換] キーまたは [変換] キーを押してから、 [カタカナ] キーを押します。

・JISキーボードの場合

[カタカナ] キーを押します。

参考

カタカナには、全角文字と半角文字があります。全角文字を入力するときには「全」を表示させます。半角文字のときには「全」の表示を消します。

[半角／全角] キーを押すごとに、「全」が表示されたり、消えたりします。

入力状態が「カナ」のときは、キーボードから入力した文字がそのままカタカナで表示されます。「２章　2-3.　ひらがなの入力」のキーボートの図に書かれているひらがながカタカナで入力できます。

ここでは、全角で「チャ」と入力してみましょう。

●「カナ」による入力

全角文字を入力しますので、 [半角／全角] キーを押して「全」を表示させます。

入力状態を「カナ」に設定して、 [ち] キーと [ゃ] キーを押します。入力した文字がそのままカタカナで表示されます。

```
A>チャ_

                                                    辞全　カナ
```

●ローマ字カナ変換による入力

1　[C] キーを押す

入力状態を「全Rカナ」にして、 [C] キーを押します。ローマ字は子音１文字だけでは決まりませんから、カーソル位置に「C」と表示されます。

```
A>C█

                                                    辞全Rカナ
```

2　[H] キーを押す

[H] キーを押します。ローマ字の入力がまだ終わっていないので、カーソル位置に「H」が表示されます。

```
A>CH█
```

3　[A] キーを押す

[A] キーを押します。カーソルの位置に、「チャ」と表示されます。

```
A>チャ_
```

かなカタカナ変換で入力する

かなカタカナ変換とは、ひらがなを入力してからカタカナに変換する方法です（ひらがなはローマ字かな変換で入力しても結構です）。この場合、入力状態は「かな」にします。ひらがなの入力方法については「2章　2-3.　ひらがなの入力」を参照してください。
例えば『ミカン』と入力してみます。

1　かなを入力する

ひらがなで「みかん」と入力します（ローマ字かな変換による入力でも結構です）。
「みかん」が画面に表示されます。

```
A>みかん█

                                        辞　かな
```

2　［無変換］キーを押す

この状態で［無変換］キーを2回押すと、全角のカタカナで「ミカン」と表示されます。

```
A>ミカン█
```

3　［無変換］キーを押す

もう一度［無変換］キーを押すと、半角のカタカナで「ミカン」と表示されます。

```
A>ﾐｶﾝ█
```

以降［無変換］キーを押すごとに、ひらがな、全角のカタカナ、半角のカタカナが繰り返して表示されます。

参考

ひらがなを入力して［変換］キーを押した後、［無変換］キーを2回押してもカタカナに変換することができます。

2-5 漢字の入力(1) —— かな漢字変換

漢字入力の基本は、読みをひらがなで入力し [変換] キーを押すことです。このように、かなを入力して漢字に変換することをかな漢字変換といいます。かな漢字変換を使うときは、必ず画面の右下に「辞」と表示されている状態にします。表示されていないときは、 [かな漢字] キーを押します。

また、この方法で入力できない漢字は、画数変換、部首変換、区点コードを使って入力することができます。

➡2章　2-6. 「漢字の入力(2) —— 漢字辞書」（P. 36），2-9. 「区点コード入力」（P. 51）

なお、漢字は全角文字のみです。画面に「全」と表示されていなくても全角文字が入力できます。

かな漢字変換で漢字を入力する

ここでは、かな漢字変換で漢字を入力する方法を説明します。
例えば、「原典」と書いてみましょう。

1 かなを入力する

キーボードから「げんてん」と入力します。ローマ字かな変換でもひらがなが入力できます。

```
A>げんてん█
```

2 [変換] キーを押す

この状態で、 [変換] キーを押すと、漢字に変換されます。

```
A>原点█
```

3 目的の漢字が出るまで [変換] キーを押す

表示された漢字が求めていたものなら、続けて次の文字を入力します。目的の漢字がでない場合は、もう一度 [変換] キーを押して同音異義語を表示させます。目的の漢字が表示されるまで [変換] キーを押します。

A>減点█

⋮

A>原典█

「原典」と表示されたところで、 [変換] キーを押すのをやめてください。

OAKは優先順位学習方式を採用しているために、前回使用した漢字が次回は最初に表示されます。つまり、「げんてん」を「原典」に変換したら、その次に「げんてん」と入力して変換すると「原典」が一番最初に表示される、というわけです。

かな漢字変換のやりかたを間違えたときは…

かな漢字変換をしているとき、文字の入力、または変換を間違えたときに読んでください。

■ [変換] キーを押していて、誤って求める漢字を通り越してしまったとき

[CTRL] キーを押しながら [無変換] キーを押していくと、 [変換] キーを押したときと逆の順序で、前に表示された漢字に戻すことができます。
例えば、石と表示したかったのに、 [変換] キーを押しているうちに、医師⇨石⇨意思⇨意志と「石」を通り越して「意志」と表示してしまったとします。

A>意志█

1 [CTRL] キーを押しながら [無変換] キーを押す

[CTRL] キーを押しながら [無変換] キーを押すと、「意思」と表示されます。

A>意思█

2 [CTRL] キーを押しながら [無変換] キーを押す

もう一度 [CTRL] キーを押しながら [無変換] キーを押すと、「石」と表示されます。

```
A>石█
```

■ [変換] （または [無変換] ）キーを押す前に間違いに気付いたとき

例えば、「みらい」と入力したいとき、間違えて「みかい」と入力してしまったとします。

```
A>みかい█
```

1 カーソルを間違えた文字に移動する

[←] キーまたは [後退] キー（JISキーボードの場合は [⇦] キー）で、カーソルを間違えたところに移動します。この場合は「か」に移動します。

```
A>みかい
```

2 正しい文字を入力する

「ら」と入力し直します。

```
A>みらい
```

3 カーソルを最後に移動する

[→] キーまたは [タブ] キーでカーソルを「い」の後ろに移動して、[変換]（または [無変換] ）キーを押します。

```
A>みらい█
```

■ 変換の直後に間違いに気付いたとき（[取消] キーを使う）

例えば、「未来」と入力したいときに、間違えて「みかい」と入力して、「未開」と変換してしまったとします。

```
A>未開█
```

1 [取消] キーを押す

[取消] キーを押すと、変換は取り消され、カーソルが入力した読みの先頭に戻ります。

```
A>みかい
```

2 正しい文字を入力する

[→] キーでカーソルを移動して、「か」のところに正しく「ら」と入力します。

```
A>みらい
```

3 カーソルを最後に移動する

[→] キーまたは [タブ] キーでカーソルを「い」の後ろに移動して、[変換] キーを押します。

```
A>みらい█
```

参考

- 変換して次の文字の入力を始めた後は、[取消] キーを押しても、変換された文字を取り消すことはできません。
- 変換した直後に [取消] キーを2回押すと、読みを入力する前の状態に戻ります。ただし、複文節変換を行っているときは、[取消] キーを2回押すと読みがひらがなに戻り、もう1回押すと（計3回）、読みを入力する前の状態に戻ります。

複文節変換で漢字を入力する

ここでは、複文節変換とその訂正のしかた、拡張変換のしかたについて説明します。複文節変換とは、複数の文節からなるひらがなを一度に漢字かな混じり文に変換する機能のことです。

変換例を以下に示します。

1 読みを入力する

変換する文の読みをひらがなで入力します。

```
A>こくさいてきなしてんでかんがえる■
```

2 [変換] キーを押す

[変換] キーを押します。

```
A>国際的な視点で考える■
```

参考

最大40文字までの読みを、まとめて漢字かな混じり文に変換します。

■ 一文節ごとに訂正する

複文節変換では、[取消] キーを押すと文節ごとの訂正ができます。複合語を含む文節は、さらに細かく文節（単語）ごとに訂正できます。

1 読みを入力する

変換する文の読みをひらがなで入力します。

```
A>あたらしいじだいかんかく■
```

2 [変換] キーを押す

[変換] キーを押します。

```
A>新しい時代間隔■
```

3　［取消］キーを押す

目的の漢字が出なかった場合、［取消］キーを押します。カーソルが文の先頭に移ります。

```
A>新しい時代間隔
```

4　［タブ］（［TAB］）キーを押す

［タブ］（［TAB］）キーを押すと、最初の文節が変換の対象になります。

```
A>新しい時代間隔
```

5　［タブ］（［TAB］）キーを押す

さらに［タブ］（［TAB］）キーを押し、カーソルを訂正したい文節の後ろに移します。この場合は、あと2回押します。

```
A>新しい時代間隔█
```

6　［変換］キーを押す

［変換］キーを押して、目的の漢字を出します。

```
A>新しい時代感覚█
```

続いて訂正するときはさらに［タブ］（［TAB］）キーを押し、目的の文節の後ろにカーソルを移す、という作業を繰り返します。

参考

前の文節に戻る場合には［CTRL］キーを押しながら［タブ］（［TAB］）キーを押してください。

■ 複文節変換で文節の区切りを直す

複文節変換では、文節の区切りの訂正ができます。

1 [取消] キーを押す

変換後 [取消] キーを押します（ここで、さらに [取消] キーを押すと、読みの入力状態に戻ります）。

```
A>貴方は知っていますか
```

2 [タブ]（[TAB]）キーを押す

[タブ]（[TAB]）キーを押し、訂正したい文節の次の文字までカーソルを移動させます。

```
A>貴方は知っていますか
```

3 [取消] キーを押す

[取消] キーを押すと、文節はひらがなに戻ります。

```
A>あなたは知っていますか
```

4 新しく区切る文節までカーソルを移動する

新しく区切る文節の次の文字まで、カーソル移動キー（[←] [→]）で移動します。ここでは [→] キーを3回押します。

```
A>あなたは知っていますか
```

5 [変換] キーを押す

[変換] キーを押して、目的の漢字を出します。

```
A>貴方は知っていますか
```

6 〔タブ〕（〔TAB〕）キーでカーソルを移動する

残りの文節の訂正をします。〔タブ〕（〔TAB〕）キーを押し、訂正したい文節の次の文字にカーソルを移動させます。ここでは、2回押します。

```
A>貴方はしっていますか█
```

7 〔変換〕キーを押す

〔変換〕キーを押して、目的の漢字を出します。

```
A>貴方走っていますか█
```

■ 拡張変換で漢字を入力する

OAKでは、1つの文節の中に複数の漢字がある場合、付属語部分の漢字の同音異義語まで変換することができます。この変換機能のことを拡張変換といいます。拡張変換をするには、〔CTRL〕キーを押しながら〔変換〕キーを押します。

「みてきてください」と入力した場合の、拡張変換の使用例を説明します。

1 〔変換〕キーを押す

〔変換〕キーを押すと、「見てきてください」と変換されます。

```
A>見てきてください█
```

2 〔CTRL〕キーを押しながら〔変換〕キーを押す

〔CTRL〕キーを押しながら〔変換〕キーを押すと、「ください」が漢字に変わります。

```
A>見てきて下さい█
```

3　［CTRL］キーを押しながら［変換］キーを押す

さらに［CTRL］キーを押しながら［変換］キーを押すと、「きて」が漢字になり、「下さい」がひらがなになります。

```
A>見て来てください█
```

4　［CTRL］キーを押しながら［変換］キーを押す

さらに［CTRL］キーを押しながら［変換］キーを押すと、「見て来て下さい」とすべての部分が変換されます。

```
A>見て来て下さい█
```

5　［CTRL］キーを押しながら［変換］キーを押す

さらに［CTRL］キーを押しながら［変換］キーを押すと、「見て来て下さい」が「観てきてください」に変換されます。

```
A>観てきてください█
```

以降、同じような順序で変換されていきます。

ただし、辞書の学習状態によって変換される漢字が違ってきます。

2-6 漢字の入力(2) —— 漢字辞書

かな漢字変換の基本は、読みをひらがなで入力して [変換] キーを押すことです。ところが難しい漢字などでは、この方法では漢字に変換できないものもあります。そこで、音読み、訓読み、画数、部首で漢字を登録している「漢字辞書」を使って、そこから漢字を取り出すことができるようになっています。この変換機能のことを漢字辞書機能といいます。この機能を使うときには、必ず画面の右下に「辞」と表示されている状態にします。表示されていないときは、 [かな漢字] キーを押してください。

読みで変換する

OAKでは、漢字辞書機能により、音読みや訓読みによる漢字の入力ができます。
例えば「企」と入力してみましょう。

1 読みを入力する

必要とする漢字の読みをひらがなで入力します（音読みでも訓読みでもかまいません）。ここでは音読みの「き」と入力します。

```
A>き█
```

2 [漢字辞書] キーを押す

文字の入力直後、あるいは [変換] キーや [無変換] キーを押した直後に [漢字辞書] キーを押します。
読みに対応した漢字が画数順に5文字ずつ画面の一番下に表示されます。

```
A>き█


1：几　2：乞　3：寸　4：己　5：旡　　　　　　　　辞　かな
```

3 漢字を検索する

[変換] キーを押すと次の5文字が表示されます。

```
A>き█

1：几　2：乞　3：寸　4：己　5：旡　　　　　　　　辞　かな
```

⇩ [変換]　　　⇧ [無変換]

```
A>き█

1：木　2：气　3：卉　4：示　5：企　　　　　　　　辞　かな
```

続いて [変換] キーを何度か押すと、入力した読みの先頭のひらがなが表示され（この場合は「き」）、辞書の中にある同じ読みの漢字をすべて表示したことを示します。
さらに [変換] キーを押すと最初の5文字に戻ります。
また、 [無変換] キーを押すと [変換] キーとは逆の順序で漢字が表示されます。

4 漢字を選択する

入力したい漢字が表示されたときは、その漢字に対応する数字をキーボードから入力します。ここでは、 [5] キーを押します。

読みの入力を開始した位置に選択した文字が表示されます。

```
A>企█
```

違う漢字を選択してしまった場合は、 [取消] キーを押します。選択した漢字の入った5文字が再び表示されますので選択し直してください。さらに [取消] キーを押すと、 1 の状態でカーソルが読みの先頭に移動します。もう一度 [取消] キーを押すと「き」を入力する以前の状態に戻ります。

画数で変換する

OAKでは、漢字辞書機能により画数による漢字の入力ができます。

例えば「債」と入力してみましょう。

1 「画」を入力する

入力状態を「かな」（または「Rかな」）にします。

親指シフトキーボードでは [SHIFT] キーを押しながら [か] キーを押します。

JISキーボードでは [か] キーを押した直後に [°] （半濁音）キーを押します。

また、ローマ字かな変換中なら [K] [W] [A] とキーを押します。

画面に「画」が表示されます。

```
A>画█

                                                辞　かな
```

2 画数を入力する

「画」の次に画数を入力します。「債」の画数「１３」を入力します。JISキーボードを使っている方は、入力状態が「英小」または「英大」に切り換えてから、「１３」と入力します。

➜２章　2-2.　「JISキーボードで英字を入力する」(P.16)

```
A>画１３█
```

3 [漢字辞書] キーを押す

[漢字辞書] キーを押すと、入力した画数の漢字が５文字ずつ画面の一番下に表示されます。もし誤った画数を入力し [漢字辞書] キーを押してしまった場合には、 [取消] キーを押して画数を入力し直してください。

```
A>画１３█

１：亂　２：棄　３：亶　４：僅　５：禽                辞　かな
```

4 漢字を検索する

［変換］キーを押すと次の5文字が表示されます。

```
A>画１３█

１：亂　２：棄　３：亶　４：僅　５：禽　　　　　　　　　辞　かな
```

⇩［変換］　　⇧［無変換］

```
A>画１３█

１：傾　２：傑　３：債　４：催　５：傷　　　　　　　　　辞　かな
```

続いて［変換］キーを何度か押していくと「（画）」が表示され、辞書の中にある同じ画数の漢字をすべて表示したことを示します。さらに［変換］キーを押すと最初の5文字に戻ります。
また、［無変換］キーを押すと［変換］キーとは逆の順序で漢字が表示されます。

5 漢字を選択する

入力したい漢字が表示されたときに、その漢字に対応する数字をキーボードから入力します。ここでは［3］キーを押します。
「画」の位置に選択した文字が表示されます。

```
A>債█
```

誤った漢字を選択してしまった場合は、［取消］キーを押します。選択した漢字の入った5文字が再び表示されますので選択し直してください。さらに［取消］キーを押すと、**2**の状態でカーソルが先頭（「画」の位置）に移動します。もう一度［取消］キーを押すと「画」を入力する以前の状態に戻ります。

部首で変換する

OAKでは、部首による漢字の入力ができます。
例えば「汗」と入力してみましょう。

1 部首名を調べる

まず、「付録　付-6. 部首の読み」を使って、必要な漢字の部首名を調べます。

2 「部」を入力する

入力状態を「かな」（または「Rかな」）にします。
親指シフトキーボードでは [SHIFT] キーを押しながら [け] キーを押します。
JISキーボードでは [け] キーを押した直後に [°] （半濁音）キーを押します。
ローマ字かな変換中なら [K] [W] [E] とキーを押します。
画面に「部」が表示されます。

```
A>部

                                                辞　かな
```

3 部首名を入力する

「部」の次に **1** で調べた部首名を入力します。「汗」と入力したいとき、部首はさんずいなので「さんずい」と入力します。

```
A>部さんずい
```

4 [漢字辞書] キーを押す

[漢字辞書] キーを押すと、入力した部首の漢字が5文字ずつ画面の一番下に表示されます。もし誤った部首名を入力し [漢字辞書] キーを押してしまった場合には、 [取消] キーを押して部首名を入力し直してください。

```
A>部さんずい

1：水　2：永　3：汁　4：汀　5：氾　　　　　　　　　　辞　かな
```

5 漢字を検索する

［変換］キーを押すと次の5文字が表示されます。

```
A>部さんずい

1：水　2：永　3：汁　4：汀　5：氾　　　　　　　　　　辞　かな
```

⇩［変換］　　⇧［無変換］

```
A>部さんずい

1：氷　2：汚　3：汗　4：江　5：汐　　　　　　　　　　辞　かな
```

続いて［変換］キーを何度か押すと最後に「（部）」が表示され、辞書の中にある同じ部首の漢字をすべて表示したことを示します。
さらに［変換］キーを押すと最初の5文字に戻ります。
また、［無変換］キーを押すと［変換］キーとは逆の順序で漢字が表示されます。

6 漢字を選択する

入力したい漢字が表示されたときに、その漢字に対応する数字をキーボードから入力します。ここで［3］キーを押します。
「部」の位置に選択した文字が表示されます。

```
A>汗
```

違う漢字を選択してしまった場合は、［取消］キーを押します。選択した漢字の入った5文字が再び表示されますので選択し直してください。さらに［取消］キーを押すと、**3** の状態でカーソルが先頭の（「部」の位置）に移動します。もう一度、［取消］キーを押すと「部」を入力する以前の状態に戻ります。

2-7 数字の入力ー数字・漢数字・数詞付数字

ここでは、数字、漢数字、数詞付の数字の入力について説明します。

■ 数字の入力

親指シフトキーボードを使っているときは、数字はいつでも（入力状態が何であっても）数字の書いてあるキーをそのまま押して入力することができます。
JISキーボードを使っているときは、入力状態が「英小」または「英大」のときに数字が入力できます。ただしテンキーがある場合は、テンキーを使うといつでも数字が入力できます。

■ 漢数字の入力

数字を全角で入力して［変換］キーを押すと、漢数字に変換できます（半角で入力しても数字は変換されませんので注意してください）。
例えば、全角で「１２３４５６７８９０」と入力して［変換］キーを何回か押していくと、次のように変換されます。

十二億三千四百五十六万七千八百九十
一二三四五六七八九〇
壱拾弐億参千四百五拾六萬七千八百九拾
壱拾弐億参千四百五拾六万七千八百九拾
壱弐参四五六七八九〇

■ 数詞付数字の入力

算用数字に数量や順序などを示す数詞を付けて、漢字混じりの文字に変換することができます。これを数詞付き変換といいます。このとき数字は全角で入力してください。
例えば、「へいせい４ねん１１がつ２５にち」と入力して［変換］キーを押すと、「平成４年１１月２５日」「平成四年十一月二十五日」などに変換することができます。
この他に次のような変換ができます。

２３００えん　⇨　２３００円　二千三百円
だい３１かい　⇨　第３１回　第三十一回
３６ぺーじ　⇨　３６頁　三十六頁
３ばんめ　⇨　３番目　三番目

2-8 記号とギリシア文字の入力

記号やギリシア文字もOAKを使って入力できます。ここでは、キーに書かれている記号、キーに書かれていない記号とギリシア文字に分けて、その入力方法を説明します。なお、FMNoteBookでは、文字キー以外のキーの並びかたが多少異なりますが、文字や記号の入力方法は同じです。

キーに書かれている記号の入力

親指シフトキーボードとJISキーボードではキーに書かれている記号の位置が違いますので、それぞれのキーボードに分けて説明します。

親指シフトキーボードの場合

■ 入力状態が「かな」「カナ」のとき、「英小」「英大」「ａ１」「ＡＬ」のとき、「Ｒかな」「Ｒカナ」のときの３とおりに分けて説明します。

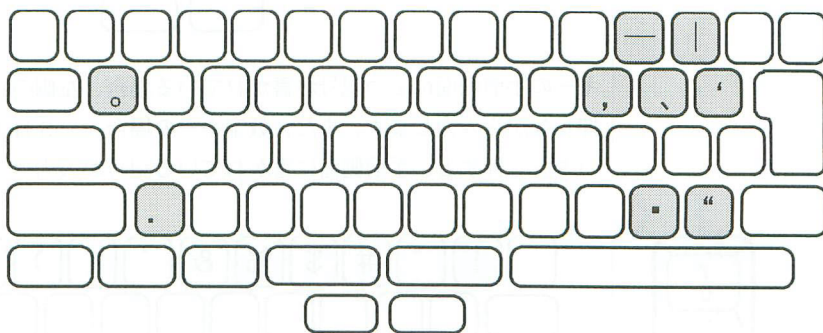
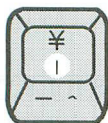
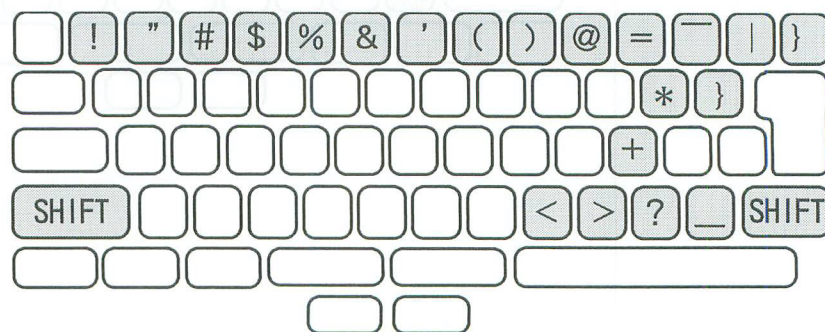
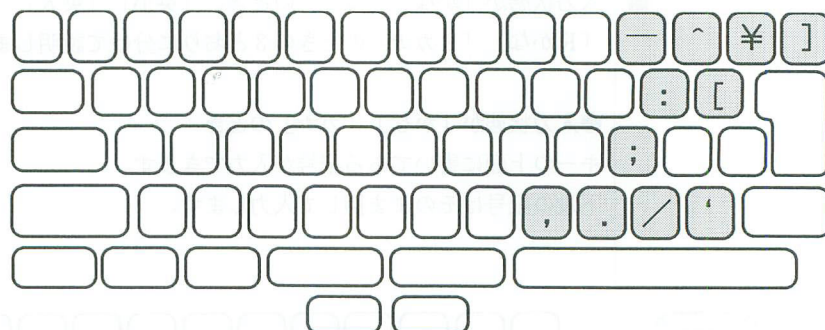
●入力状態が「かな」「カナ」のとき

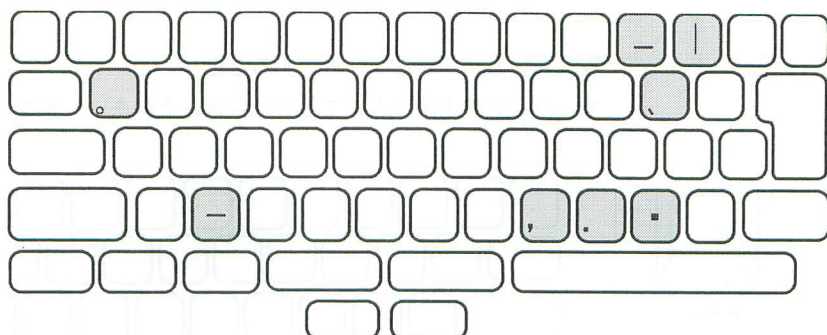
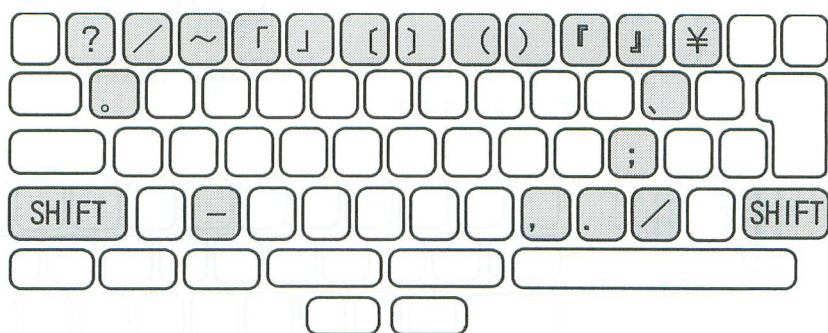
キーの上面に書いてある記号が入力できます。

下段の記号はそのまま押して入力します。

キーの上段に書かれている記号は、同じ側の親指キーと同時に押して入力します。

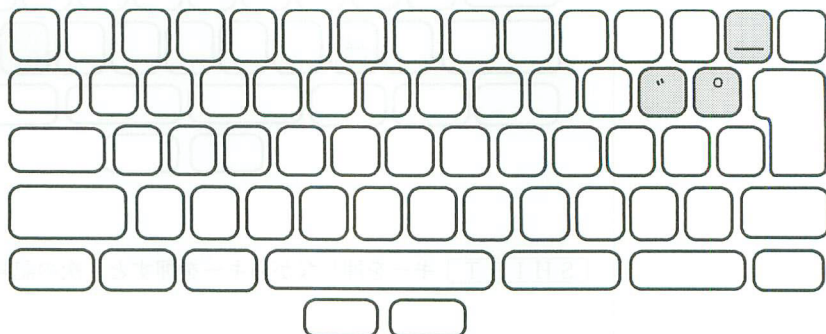
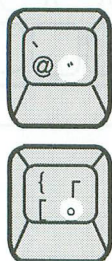
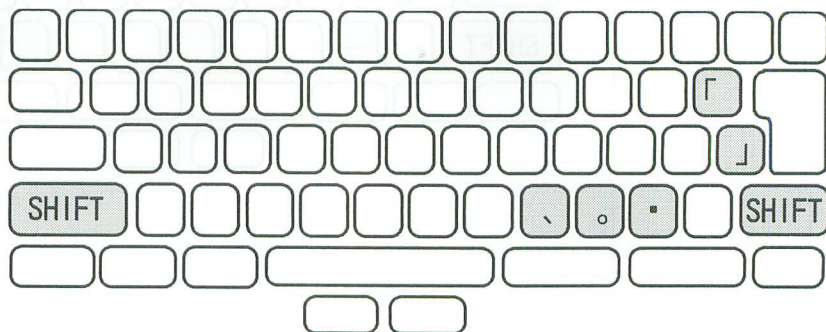
●入力状態が「英小」「英大」「ａｌ」「ＡＬ」のとき
キーの手前側面に書いてある記号が入力できます。
キーの手前側面に２つ記号が書かれている場合、右側の記号はそのまま押して入力します。

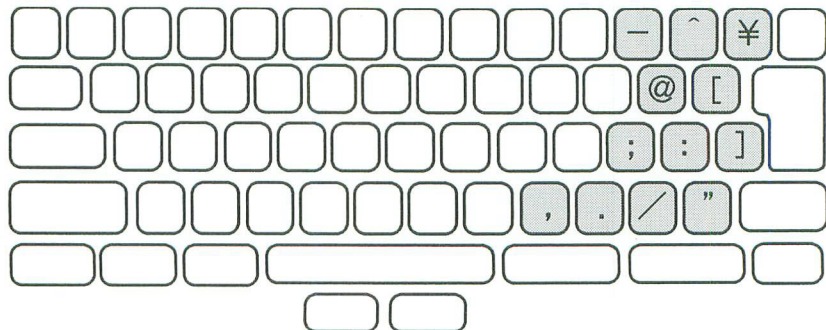
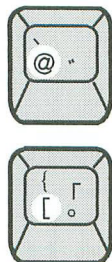
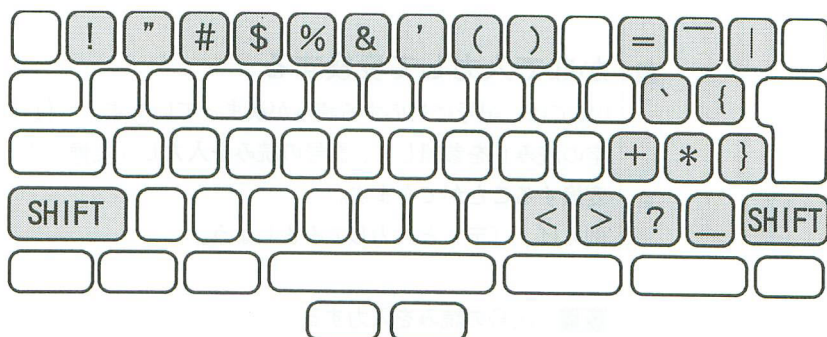
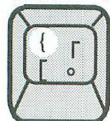
キーの手前側面に２つ記号が書かれている場合、左側の記号は［ＳＨＩＦＴ］キーを押しながら入力します。また、数字キーの場合、［ＳＨＩＦＴ］キーを押しながらそのキーを押すと、手前側面に書かれている記号が入力できます。

●入力状態が「Rかな」「Rカナ」のとき

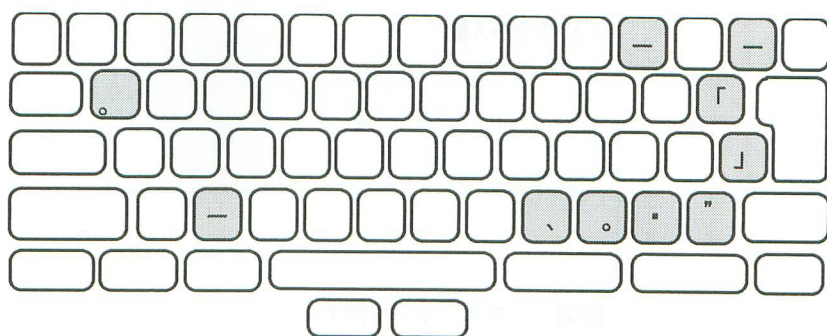
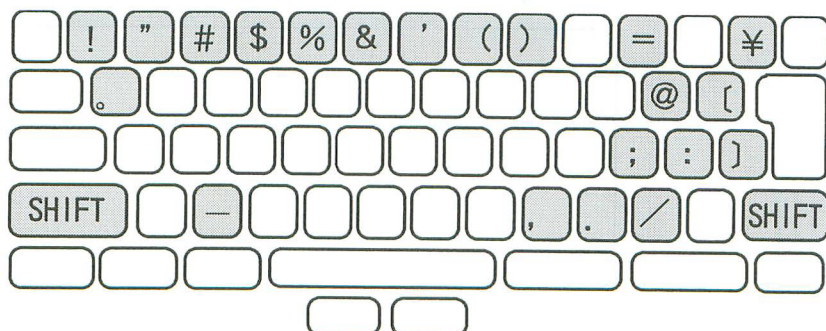
キーをそのまま押すと、次の記号が入力できます。

SHIFT キーを押しながらキーを押すと、次の記号が入力できます。

■ JISキーボードの場合

入力状態が「かな」「カナ」のとき、「英小」「英大」のとき、「Rかな」「Rカナ」のときの3とおりに分けて説明します。

●入力状態が「かな」「カナ」のとき

キーの右側の下段に書いてある記号は、そのキーを押すと入力できます。

キーの右側の上段に書いてある記号は、SHIFT キーを押しながらそのキーを押すと入力できます。

●入力状態が「英小」「英大」のとき

キーの左側の下段に書いてある記号は、そのキーを押すと入力できます。

キーの左側の上段に書いてある記号は、［SHIFT］キーを押しながらそのキーを押すと入力できます。

●入力状態が「Rかな」「Rカナ」のとき

キーをそのまま押すと、次の記号が入力できます。

［SHIFT］キーを押しながら、キーを押すと、次の記号が入力できます。

キーに書かれていない記号とギリシア文字の入力

キーに書かれていない記号やギリシア文字を入力するには、かなで入力して変換する方法と漢字辞書を使って入力する方法があります。

■ かなで入力して変換する

OAKでは、記号に対応する読みが決まっています。「付録　付-7. 記号とギリシア文字の読み」を参照して、記号の読みを入力し［変換］キーを押すと、対応する記号に変換することができます。
例えば、「〒」と入力してみましょう。

1 記号の読みを入力する

まず「付録　付-7. 記号とギリシア文字の読み」により必要な記号の読みを調べます。「〒」は「ゆうびん」という読みが付いていますので、「ゆうびん」と入力します。

```
A>ゆうびん█

                                                辞　かな
```

2 ［変換］キーを押す

［変換］キーを何回か押すと、入力した読みに対する記号が表示されます。

```
A>〒█
```

■ 漢字辞書を使って入力する

漢字辞書機能を利用して記号を入力することができます。

「付録　付-8. 漢字辞書を使って入力する記号の読み」を参照して、読みを調べて入力すると、対応する記号が5文字ずつ画面の一番下に表示されます。

例えば、「★」と入力してみましょう。

1 登録されている読みを入力する

「★」は「いっぱんきごう」という読みで登録されていますので、読みを入力します。

```
A>いっぱんきごう
```

2 漢字辞書 キーを押す

読みを入力したら 漢字辞書 キーを押します。画面の一番下の行に、「いっぱんきごう」という読みで登録されている記号が表示されます。

```
A>いっぱんきごう


1：#  2：&  3：*  4：@  5：§                 辞 かな
```

3 記号を検索する

変換 キーを押すと、次の5つの記号が表示されます。求める記号が表示されるまで 変換 キーを何回か押します。 無変換 キーを押すと、 変換 キーと逆の順序で記号が表示されます。

```
A>いっぱんきごう


1：☆  2：★  3：○  4：●  5：◎                 辞 かな
```

4 記号を選択する

求める「★」が表示されたら、対応する数字（この場合 [2] キー）を入力します。

```
A>★█
```

「★」が入力できました。

参考

「★」を入力するには、「ほし」と入力して [変換] キーを押す方法もあります。

2-9 区点コード入力

OAKでは、区点コードによる漢字や記号の入力ができます。

1　区点コードを調べる

本体に添付のマニュアルにあるコード表を使って、必要な漢字の区点コードを調べます。

2　「区」を入力する

入力状態を「かな」（または「Rかな」）にします。
親指シフトキーボードでは、[ＳＨＩＦＴ] キーを押しながら [く] キーを押します。JISキーボードでは [く] キーを押した直後に [゜] （半濁音）キーを押します。また、ローマ字かな変換中なら [K] [W] [U] とキーを押します。
画面に「区」が表示されます。

```
A>区

                                    辞　かな
```

3　区点コードを入力する

「区」の次に**1**で調べた区点コードを入力します。例えば、「亜」と表示したいときは「亜」の区点コードの「１６０１」を入力します。
JISキーボードをお使いの方は、入力状態を「英小」または「英大」に切り換えてから「１６０１」を入力します。

➔２章　2-2.　「JISキーボードで英字を入力する」(P.16)

```
A>区１６０１
```

4 　[漢字辞書] キーを押す

[漢字辞書] キーを押すと、入力したコードに対応する漢字が「区」の位置に表示されます。

```
A>亜█
```

もし誤ったコードを入力し、[漢字辞書] キーを押してしまった場合には、[取消] キーを押して区点コードを入力し直してください。

2-10 外字の入力

外字とは、漢字や記号を自由にデザインして作った文字のことです。ここでは、外字の登録と入力の方法について説明します。

外字の登録

外字の登録は、MS-DOSの外字ユーティリティ（GAIJIコマンド)を使用して行います。外字ユーティリティの使用方法については、『日本語MS-DOS®V5.0ユーザーズリファレンス』を参照してください。

外字を入力する

外字ユーティリティで登録した外字の入力方法について説明します。ここでは、既に外字を作って登録してあるものとします。

1 「とうろく」と入力する

「とうろく」と読みを入力します。

```
A>とうろく█
```

2 漢字辞書 キーを押す

漢字辞書 キーを押すと、外字領域に登録されている文字が5文字ずつ画面の一番下に表示されます。

```
A>とうろく█

1：☞ 2：☛ 3：[外字] 4：[外字] 5：[外字]                辞 かな
```

3 外字を検索する

[変換] キーを押すと次の5文字が表示されます。続けて [変換] キーを何度か押すと最後に「（と）」が表示され、登録されている外字をすべて表示したことを示します。

さらに [変換] キーを押すと最初の5文字に戻ります。また、 [無変換] キーを押すと [変換] キーとは逆の順序で外字が表示されます。

```
A>とうろく■

1：☞  2：☛  3：▣  4：▣  5：▣                    辞　かな
```

⇩ [変換]　　　⇧ [無変換]

```
A>とうろく■

1：▣  2：▣  3：▣  4：▣  5：▣                    辞　かな
```

4 外字を選択する

入力したい外字が表示されたとき、その外字に対応する数字をキーボードから入力します。

ここでは [5] キーを押します。

「とうろく」と入力した位置に選択した外字が表示されます。

```
A>▣■
```

誤った外字を選択してしまった場合、 [取消] キーを押します。選択した外字の入った5文字が再び表示されますので選択し直してください。

なお、外字の入力は、区点コード入力によっても行うことができます。外字に対応する区点コードは、8501～8594、8601～8694となります。

➔2章　2-9.　「区点コード入力」（P.51）

2-11 単語登録と単語抹消

OAKには単語登録・単語抹消機能があります。単語登録とは、よく使う固有名詞や特定の単語・文章等に簡単な読みを付けて辞書に登録する機能です。単語抹消とは、登録した単語や文章等、辞書の中の不要な単語を抹消する機能です。単語登録や単語抹消により、自分が使いやすい辞書を作ることができます。

単語登録のしかた

単語登録を使って単語や文章を登録すると、登録したときに指定した読みを入力し、［変換］キーを押すだけで、その単語や文章を呼び出すことができます。登録できる単語の文字数は、全角文字で40文字までで与える読みの長さは12文字までです。
ここでは、単語登録の方法を説明します。「オアシス」という単語を「お」という読みで登録してみましょう。

1 ［単語登録］キーを押す

登録したい単語（文章）が画面上に表示されている状態で［単語登録］キーを押します。

```
A>オアシス█


                                                  辞　かな
```

2 登録したい単語へカーソルを移動する

［↑］［↓］［→］［←］キーを使って、登録したい単語（文章）の先頭にカーソルを移動させます。

```
A>オアシス


単語登録　登録開始位置にカーソルを移動して実行キーを押して下さい　辞　かな
```

カーソルを先頭に移動できたら、［実行］キーを押します。
単語登録をとりやめたいときは、［取消］キーを押すと以前の位置にカーソルは戻り、単語登録の表示も消えます。

3 登録する単語（文章）を指定する

登録する単語（文章）がどこまでかを、［→］キーで指定します。登録される範囲は、カーソルの左側の文字までです。このとき、［→］キーで指定した範囲は反転表示されます。

```
A>オアシス█


単語登録　登録範囲指定                                    辞　かな
```

指定ができたら［実行］キーを押します。

4 読みを入力する

単語（文章）の指定が終わると画面の一番下の行で読みを入力します。
読みは先頭がひらがなで、12文字以内で入力します。

```
A>オアシス


単語登録　読み「お█                    」                辞　かな
```

読みとして入力できる文字は、ひらがな、英数字、ピリオド、カンマ、空白、＄、／、長音、濁点、半濁点、句読点です。また、読みの先頭は必ずひらがなにします。
読みが入力できたら、［実行］キーを押します。
また、読みを入力後、［ＣＴＲＬ］キーを押しながら［実行］キーを押すと、接続なしで登録されます（品詞指定画面が表示されません）。

5 品詞を指定する

登録する単語の品詞を指定しておくことにより、指定した読みだけでなく、登録した単語（文章）の活用形の読みを入力したり、接尾語を付けた読みを入力した場合も変換させることができます。
表示される品詞のリストから登録する単語の品詞の番号を指定します。

```
A>オアシス

品詞1  1：無接続  2：名詞  3：姓  4：名  5：地名  6：サ変名詞  7：形容動詞  8：副詞  辞  かな
```

品詞の指定内容は次のとおりです（一部、国文法と異なる点があります）。

- 無接続　：文章または文節変換の必要がないと思われる単語を登録します。
- 名詞　　：普通名詞を登録します。
- 姓　　　：人名（姓）だけを登録します。
- 名　　　：人名（名）だけを登録します。
- 地名　　：地名を登録します。
- サ変名詞：「〜する」「〜させる」など、サ変動詞に接続する名詞を登録します。
- 形容動詞：形容動詞の語幹部分を登録します。
- 副詞　　：「が」「は」などの助詞がつかなくても、他の文節とつながる副詞を登録します。

番号の指定ができたら、［実行］キーを押します。

6　登録を終了する

登録が正しく行われると、「登録完了」とメッセージが表示されます。これで登録は終了です。

```
A>オアシス_

登録完了                                   辞  かな
```

単語抹消のしかた

登録した単語（文章）や辞書中の不要な単語を抹消する単語抹消の操作方法について説明します。ここでは、「お」という読みで登録した「オアシス」を抹消してみます。

1　抹消したい単語の読みを入力する

抹消したい単語（文章）の登録した読みを入力します。

```
A>お
```

2 抹消したい単語を表示する

[変換] キーを押して、抹消したい単語を表示します。

```
A>オアシス█
```

3 [単語抹消] キーを押す

単語（文章）を表示させた直後に [単語抹消] キーを押します。

画面の左下に「登録抹消」とメッセージが表示され単語抹消の処理が完了します。

```
A>オアシス█

登録抹消                                         辞　かな
```

半角文字を含む単語を単語登録した場合、その単語は別売のFM-OASYSでは変換できません。また、FM-OASYSで半角文字を含む単語を登録した場合、その単語をOAKで変換することはできません。

辞書の利用

ＯＡＫの辞書はどんなときに使うのか、また、辞書の内容を見ながら修正できる辞書ユーティリティ、辞書メンテナンスユーティリティの使いかたについて説明します。

3-1 辞書の利用のしかた

辞書には、読み・画数・部首などから漢字に変換するための情報が記憶されており、主に漢字を入力するときに必要になります。
ここでは、辞書を使用する際の注意と、辞書の利用のしかたについて説明します。

辞書を使うときは

辞書は、次のときに使います。

・読みを漢字に変換するとき
➜2章　2-5.　「漢字の入力(1) —— かな漢字変換」（P.27）

・読みや画数、部首に対応する漢字の一覧を表示させるとき
➜2章　2-6.　「漢字の入力(2) —— 漢字辞書」（P.36）

・新しく単語を登録するときや、登録してある単語を削除するとき
➜2章　2-11.　「単語登録と単語抹消」（P.55）

●辞書の状態

辞書を使うときは、辞書を使用可能な状態にしておく必要があります。この状態を「辞書がオープンされた状態」といいます。また、OAKの使用後、辞書の入ったフロッピィディスクをディスクドライブから抜き取るときは、辞書を抜き取ってもよい状態にする必要があります。この状態を「辞書がクローズされた状態」といいます。
辞書がどちらの状態かは、画面右下の「辞」の表示で確かめられます。

「辞」が表示されているとき…辞書がオープンされた状態（漢字入力可能）
辞書を使うことができます。ただし、FMNoteBook以外の機種では、この状態で辞書を複写したり、辞書の入ったフロッピィディスクをディスクドライブから抜き取ってはいけません。

「辞」が消えているとき　…辞書がクローズされた状態（漢字入力不可）
辞書を使うことはできません。FMNoteBook以外の機種では、辞書を複写したり、辞書の入ったフロッピィディスクをディスクドライブから抜き取ることができます。

また、POFFコマンドでMS-DOSを終了するときには、自動的にクローズされた状態になります。
辞書がクローズされた状態のときに、辞書の入ったフロッピィディスクをディスクドライブにセットして [かな漢字] キーを押すと、辞書がオープンされた状態になりま

す。また、辞書がオープンされた状態のときに [かな漢字] キーを押すと、辞書がクローズされた状態になります。

- FMNoteBookでは、辞書をフロッピィディスクあるいはハードディスクにおくことはできません。
- シングルドライブを設定しているときには、フロッピィディスクの辞書は使用できません。ハードディスク内の辞書を使用してください。

辞書の便利な使いかた

辞書には次のような便利な機能があります。

(1) F-BASICの漢字の予約語が登録されている

辞書にはF-BASICで使用する漢字の予約語も登録されています。
ただし、FMNoteBook本体内のROM辞書には登録されていません。

例）かんぶぶん　→　漢部分＄
　　もじれつ　　→　文字列＄

(2) 辞書は使いやすくなっていく

読みを入力して漢字に変換したときの、漢字の表示の順序が、よく使う単語が先に表示されるように変わっていきます。これを優先順位学習といいます。

例）「基幹」と入力するとき、最初は、読みを入力して [変換] キーを何回か押さなくてはいけません。

　　きかん　→　季刊　→　期間　→　…　→　基幹

　　一度「基幹」と入力した後は、その次に読みを入力して [変換] キーを押すと、最初に「基幹」と変換されます。

　　きかん　→　基幹　→　季刊　→　期間　→　……

➔「1章　1-1. OAKとは」（P.2）

(3) 辞書の内容を変える

辞書にない単語を新たに登録したり、使用しない単語を抹消したり、略した読みで文や単語を登録するなど、辞書の内容を使いやすく変えていくと入力をより楽にすることができます。

例）「日頃格別のお引き立て誠にありがとうございます」という文を「ひごろ」という読みで登録しておくと、「ひごろ」と入力して [変換] キーを押すだけで、「日頃格別のお引き立て誠にありがとうございます」という文に変換できます。

➔単語の登録と抹消のしかた「2章　2-11. 単語登録と単語抹消」（P.55）
➔辞書に登録されている単語を見る「3章　3-3.　辞書ユーティリティ」（P.66）

(4) 辞書をセットするドライブを変える

辞書の入ったディスクは、どのディスクドライブにセットしてもかまいません。フロッピィディスクドライブ２つでMS-DOSをご利用の場合、アプリケーションのプログラムと辞書のファイルが１枚のフロッピィディスクに入りきらないときでも、アプリケーションプログラムの入ったディスクをドライブＡに、辞書ファイルの入ったディスクをドライブＢにセットできるので、ディスクを入れ換える必要がなくなり、とても便利です。

また、仕事によって、それぞれ違う辞書を使い分けることもできます。

ただし、FMNoteBookでは、本体内に登録されているユーザ辞書のみを使うように設定されていますので、この機能は使用できません。

➔辞書ドライブの変更「３章　3-2.　辞書を取り替える」（P.63）
➔MS-DOS起動時の辞書ドライブの指定「４章　OAKの環境の設定」（P.79）

3-2 辞書を取り替える

OAKでは、使用する辞書を交換したり、辞書をセットするディスクドライブ（これを辞書ドライブといいます）の変更ができます。
ここでは、辞書の交換のしかたと辞書ドライブの変更のしかたを説明します。
ただし、FMNoteBookでは、本体内に登録されているユーザ辞書のみ使うように設定されていますので、この機能は使用できません。

辞書を交換する

辞書の交換は、次のように行います。ここでは、辞書の入ったフロッピィディスクが既にセットしてあるものとして説明します。

1 辞書をクローズする

「辞」と表示されているときは、［かな漢字］キーを押します。「辞」の表示が消え、辞書がクローズされた状態になります。

かな

辞書の入ったフロッピィディスクを抜き取るときは、必ず辞書をクローズした状態で行ってください。
また、辞書に対して、MS-DOSのCOPYコマンドなどを使って複写を行う場合は、必ず辞書をクローズした状態にしてから複写してください。

2 辞書を交換する

辞書の入ったフロッピィディスクを交換します。

3 辞書をオープンする

かな漢字 キーを押すと、「辞」と表示され、辞書がオープンされた状態になります。

辞　かな

参考

辞書が正しくセットされていないときは、次のように表示されます。

辞書が見つかりません	かな

辞書を正しくセットして、もう一度**3**の操作をしてください。

辞書ドライブを変更する

辞書ドライブは、次のように変更します。

辞書の入ったフロッピィディスクを抜き取るときは、必ず辞書をクローズした状態で行ってください。
また、辞書に対して、MS-DOSのCOPYコマンドなどを使って複写を行う場合は、必ず辞書をクローズした状態にしてから複写してください。

1 辞書をセットする

辞書の入ったフロッピィディスクを、新たに辞書ドライブに指定するドライブにセットします（ここではドライブＢとして説明します）。
このとき、辞書の入ったフロッピィディスクは、書き込み可能な状態にしておきます。「辞」の表示は、あってもなくてもかまいません。

2 ＣＴＲＬ キーを押しながら かな漢字 キーを押す

辞書ドライブを指定する画面になります。このとき、入力状態が自動的に「英大」に変わります。

辞書変更Ａ　辞書ドライブを指定して下さい（Ａ，Ｂ，Ｃ，…，Ｐ）　辞　英大

3 新しい辞書ドライブを指定する

新たに指定したい辞書ドライブ名を入力します。入力したドライブ名が、「辞書変更」の右側に表示されます。

例えば、「B」を入力すると、次のようになります。

辞書変更B　辞書ドライブを指定して下さい（A，B，C，…，P）　辞　英大

4 [実行] キーを押す

「辞書変更完了」と表示され辞書ドライブが変更されます。さらに辞書がオープンされた状態になります。また、入力状態は元に戻ります。

辞書変更完了　辞　かな

参考

辞書が正しくセットされていないときは、辞書はオープンされません。次のように表示され、入力状態は元に戻ります。

ただし、この場合も辞書ドライブは変更されます。

辞書が見つかりません　かな

3-3 辞書ユーティリティ

OAKには、辞書に登録されている単語を参照したり、印刷したりするためのユーティリティがあります。これを辞書ユーティリティといいます。

辞書ユーティリティには、次のような機能があります。

- 辞書に登録されている単語を参照できます。またこのとき文字列の検索機能等を利用できます。
- 辞書に登録されている単語を印刷したり、ファイルに出力できます。
- 辞書に登録されている単語を確認しながら、単語登録や単語抹消できます。

ここでは、辞書ユーティリティの機能と操作のしかたについて説明します。辞書ユーティリティはマウスでも操作できます。

ただし、FMNoteBookでは辞書ユーティリティを使用できません。

辞書ユーティリティの操作のしかた

辞書ユーティリティは、次のような操作をします。

本節の説明中の画面表示は、機種によって多少異なる点があります。

1 MS-DOSを起動する

MS-DOSを起動します。画面右下に「辞」と表示されていることを確かめてください。オープンされている辞書が、辞書ユーティリティの操作の対象となります。

「辞」と表示されていないときは、辞書をセットして [かな漢字] キーを押すと、「辞」と表示されます。

➔辞書の交換、辞書ドライブの変更→３章　3-2.「辞書を取り替える」（P.63）

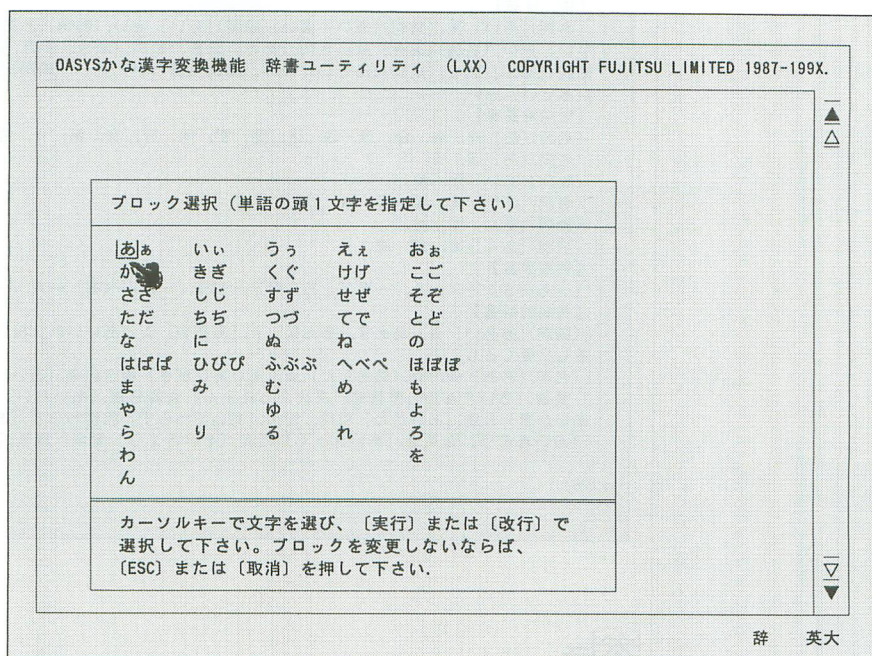
2 辞書ユーティリティを起動する

OAKUTYコマンドを使って、辞書ユーティリティを起動します。MS-DOSのプロンプト状態で、「oakuty」と入力して [実行] キーを押します。

```
A>oakuty_

                                                        辞  英小
```

3 ブロック選択の画面が表示される

ブロックを指定する画面が表示されます。辞書ユーティリティでは、ブロック単位で辞書の内容を参照します。ブロックとは頭文字が同じ単語の集まりです。ただし、同じ頭文字の単語が少ないときは、いくつかの頭文字の単語をまとめて1つのブロックとしています。

4 参照したい単語の頭文字のブロックを指定する

[↑] [↓] [←] [→] キーを押して、カーソル（反転表示）を指定する文字に合わせ、[実行] キーを押します。

マウスの場合は、マウスを移動してカーソル（反転表示）を指定する文字に合わせ、左ボタンを押します。

参考

マウスを使用する際には、GDS.SYSとMOUSE7.COM（またはMOUSE7.SYS）をCONFIG.SYSファイルに組み込む必要があります。組み込みの方法については、『日本語MS-DOS®V5.0ユーザーズガイド』を参照してください。

5 ブロックの先頭が表示される

指定したブロックの先頭部分が表示されます。

参考

・初めてブロックの参照を行ったときには、ブロックの表示に重ねて次のメッセージが表示されます。なおこの表示は、何かキーを押すと消えます。

メッセージ
〔改行〕または〔実行〕キーでメニューを表示します.

・現在、画面に表示されている部分が、ブロック全体のどの位置かは、画面右端の□の位置でわかります。
△のすぐ下がブロックの先頭、▽のすぐ上の位置がブロックの終わりとして表示されます。また、△と▽の間がブロック全体に対応します。
・ブロックの先頭と終わりは、次のように表示されます。

```
                                                ┌ブロックの先頭
.............................................&lt;Top&gt;..............................................
【優先辞書】
(名詞)[あい] 愛,(動詞)[あい] 会い,(動詞)[あい] 合い,(動詞)[あおい] 青い,(動詞)[あ
かい] 赤い,(名詞)[あき] 秋,(名詞)[あき] 空き,(動詞)[あき] 開き,(動詞)[あく] 空く,(
```

```
(名詞)[あんみん] 安眠,[～ぼうがい] 妨害,[あんもく] 暗黙,[あんもないと] ★,[あんも
にあ] ★,[あんやく] 暗躍,[あんらく] 安楽, 安楽,[～し] 死,[あんらっきー] ★,
...........................................&lt;Bottom&gt;............................................
                                                └ブロックの終わり
```

・表示されている単語には次のような特殊な記号があります。
※……FM-OASYSでのみ使用できる特殊文字を表します。
☆……ひらがなに変換される文字を表します。
★……カタカナに変換される文字を表します。

6 ブロックの内容を参照する

ブロックの内容を参照するときは、画面表示をスクロールします。スクロールとは、画面が巻物のように流れることです。また、見たい文字列を検索することができます。

操作は、次のようにします。

(1) スクロール

- [↑] または [前行] キーを押す……1行上にスクロールします。
- [↓] または [次行] キーを押す……1行下にスクロールします。
- [SHIFT] キーを押しながら [↑] キーを押す
……上方に連続的にスクロールします。
- [SHIFT] キーを押しながら [↓] キーを押す
……下方に連続的にスクロールします。

〈マウスの場合〉

- マウスカーソルを画面右端の△に合わせ、左ボタンを押す
……1行上にスクロールします。
- マウスカーソルを画面右端の▽に合わせ、左ボタンを押す
……1行下にスクロールします。

(2) ジャンプ（ブロック内で自分の好きな位置を指定して表示させること）

- [CTRL] キーを押しながら [↑] キーを押す
……ブロックの先頭を表示します。
- [CTRL] キーを押しながら [↓] キーを押す
または、[CTRL] キーを押しながら [PF8] キーを押す
……ブロックの終わりを表示します。

〈マウスの場合〉

- マウスカーソルを画面右端の△と▽の間の適当な位置に合わせ、左ボタンを押す
……マウスカーソルで指定した位置に対応するブロックの部分が表示されます。

(3) 検索

[CTRL] キーを押しながら [PF7] キーを押す
……検索する文字列を指定する画面が表示されます。操作方法は 7 の(6)文字列検索を参照してください。

(4) ブロックの選び直し

・ [PF8] キーを押す……ブロックを指定する **3** の画面に戻ります。操作は **3** を参照してください。

・ [PF6] キーを押すか、 [SHIFT] キーを押しながら [前行] キーを押す
……前のブロックを表示します。

・ [PF7] キーを押すか、 [SHIFT] キーを押しながら [次行] キーを押す
……次のブロックを表示します。

〈マウスの場合〉

・マウスカーソルを画面右端の▲に合わせて左ボタンを押す
……前のブロックを表示します。

・マウスカーソルを画面右端の▼に合わせて左ボタンを押す
……次のブロックを表示します。

参考

例えば、「き」のブロックを表示しているときに▲に合わせて左ボタンを押すと、「か」のブロックが表示されます。また「き」のブロックを表示しているときに▼に合わせて左ボタンを押すと、「く」のブロックが表示されます。

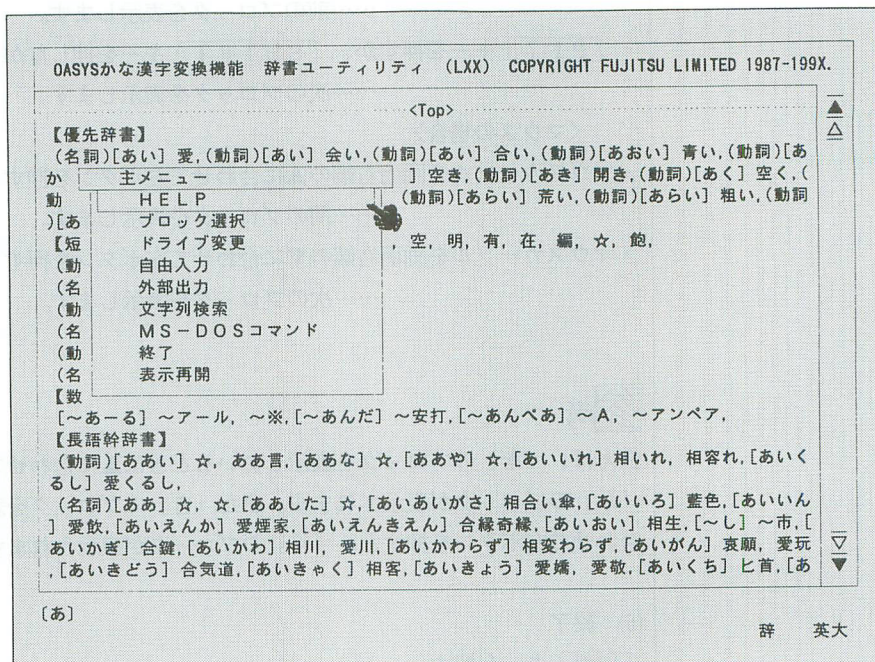
(5) 終了

[取消] キーを押す
……「終了する」「終了しない」を選ぶ画面が表示されます。操作方法は **7** の(8)終了を参照してください。

7 主メニューを表示する

5 の画面で [実行] キーを押してください。辞書ユーティリティで実行できる機能の主メニューが表示されます。マウスの場合は、マウスカーソルを最右端の列以外に移動して、右ボタンを押します。
次の機能が実行できます。

(1) ブロックを参照する操作の説明を見るとき……………………HELP
(2) ブロックを参照したとき表示される用語や記号の説明を見るとき……HELP
(3) ブロックの中で文字列を検索して参照するとき………………文字列検索
(4) 参照しているブロックの内容を印刷するとき…………………外部出力
(5) 参照しているブロックの内容をファイルに出力するとき……外部出力
(6) 単語を登録・削除するとき………………………………………自由入力
(7) ブロックを選び直すとき…………………………………………ブロック選択

⑻　辞書ユーティリティを終了するとき…………終了
⑼　他のドライブにある辞書を参照するとき……ドライブ変更
⑽　MS-DOSコマンドを実行するとき………………MS-DOSコマンド

［取消］キー、または［ESC］キーを押すとメニューが消えて元の画面に戻ります。マウスの場合は、右ボタンを押すか、主メニューの「表示再開」を選択すれば、元の画面に戻ります。

8　主メニューの各項を選択する

［↑］［↓］［←］［→］キーを押して、選択する項にカーソル（反転表示）を合わせ、［実行］キーを押します。

マウスの場合は、選択する項にカーソル（反転表示）を合わせ、左ボタンを押します。

［←］キーを押すと、主メニューの先頭にカーソルが移動します。［→］キーを押すと、主メニューの終わりにカーソルが移動します。

各項の内容は次のとおりです。

(1) HELP

「HELP」では、ブロックを参照したときに表示される用語と記号の説明、およびブロックを参照する際のキー操作、マウス操作の説明を見ることができます。この機能が選択されると、主メニューと同じ形式でサブメニューが表示されます。
主メニューと同じ操作でサブメニューの項目を選択すると、項目に対応する説明が表示されます。何かのキーを押すか、マウスの右ボタンを押すと、サブメニューに戻ります。
「メニューに戻る」を選ぶと、主メニューに戻ります。

(2) ブロック選択

「ブロック選択」では、参照するブロックを選び直すことができます。
この機能が選択されると、**3** の画面が表示されます。操作も **3** 以降と同じです。
[取消] キーまたはマウスの右ボタンを押すと、主メニューに戻ります。

(3) ドライブ変更

「ドライブ変更」では、参照する辞書のドライブ名を指定し直すことができます。この機能が選択されると、選択できるドライブ名が主メニューと同じ形式で表示されます。
主メニューと同じ操作でドライブ名を選択します。
なお、参照中の辞書がセットされているドライブには「（表示中）」と表示されます。

(4) 自由入力

「自由入力」では、単語の登録・抹消ができます。この機能が選択されると、ウィンドウが表示されます。この状態で文字を入力すると、入力した文字はすべてウィンドウ内に表示されるので、単語の登録や抹消ができます。

➜単語の登録と抹消のしかた「２章　2-11. 単語登録と単語抹消」（P.55）

[取消] キーを押すと主メニューに戻ります。
なお、単語の登録や抹消を行って辞書の内容を変更したあと、その結果を画面で確認するときは、もう一度、主メニューの「ブロック選択」を実行して、参照するブロックを指定し直してください。

主メニューの「ドライブ選択」機能で、参照する辞書を変更したときは、単語の登録・抹消を行う辞書も変更してください。

➜辞書ドライブの変更→３章　3-2.「辞書を取り替える」（P.63）

(5) 外部出力

「外部出力」では、参照しているブロックの内容を印刷したり、ファイルに出力できます。この機能が選択されると、「出力するファイル名は？」と表示されます。
「PRN」と入力して 実行 キーを押すと印刷できます。またファイル名を入力して 実行 キーを押すとファイルに出力できます。
なお、出力されたファイルは、MS-DOSのテキストファイルです。

出力を中断するときは、 取消 キーまたはマウスの右ボタンを押します。

(6) 文字列検索

「文字列検索」では、参照しているブロックの中で、文字列を検索して表示させることができます。この機能が選択されると、「検索したい文字列を入力してください」と表示されます。
検索したい文字列を入力して 実行 キーを押すと、検索が始まります。検索された文字列は画面の一番上の行に表示され、再度「検索したい文字列を入力してください」と表示されます。
取消 キーを押すと主メニューに戻ります。

(7) MS-DOSコマンド

「MS-DOSコマンド」を使うと、辞書ユーティリティの動作中にMS-DOSのコマンドを実行できます。この機能が選択されると、MS-DOSのプロンプト状態になります。
通常、MS-DOSを使うように操作します。
EXITコマンドを実行すると、主メニューに戻ります。

(8) 終了

「終了」を選択すると、辞書ユーティリティを終了します。主メニューと同じ形式で、「終了する」「終了しない」を選択するメニューが表示されます。主メニューと同じ操作で項目を選択します。
「終了する」を選択すると、辞書ユーティリティを終了します。「終了しない」を選択すると、主メニューに戻ります。

(9) 表示再開

「表示再開」を選択すると、主メニューが表示される前の画面（ブロックを参照する **5** の画面）に戻ります。

3-4 辞書メンテナンスユーティリティ

辞書メンテナンスユーティリティには次のような機能があります。

- 辞書メンテナンスユーティリティでは、登録した単語をフロッピィディスク、ハードディスク、ICメモリカードにファイルとして取り出したり、取り出した登録単語のファイルを辞書に登録できます。
- FMNoteBookでは本体内メモリのユーザ辞書をフロッピィディスク、ハードディスク、ICメモリカードに保存したり、取り出したユーザ辞書や初期状態のユーザ辞書を本体内のメモリに登録できます。

それぞれの機能について指定方法は以下のとおりです。
指定方法の例では、登録単語ファイル名をTOROKU.DICとし、取り出す先あるいは読み込む元のドライブをAとして説明しています。

■ 登録単語の取り出し（FMNoteBook以外の機種）

●OASYS.DIC内の登録単語を取り出す

```
DICUTY /Fd OASYS.DICのパス名ファイル名
                              登録単語ファイルのパス名ファイル名
```

＜ 例 ＞　DICUTY /Fd OASYS.DIC A:¥TOROKU.DIC

●FM-OASYSのディスク辞書内の登録単語を取り出す

```
DICUTY /Fo Hユニット番号(0-4) 区画番号(1-10)
                              登録単語ファイルのパス名ファイル名
```

＜ 例 ＞　ユニット番号０、区画番号１の場合
DICUTY /Fo H0 1 A:¥TOROKU.DIC

●FM-OASYSの辞書フロッピィ内の登録単語を取り出す

```
DICUTY /Fo Fドライブ番号(0-3) 登録単語ファイルのパス名ファイル名
```

< 例 > 辞書フロッピィのドライブ番号１の場合
DICUTY /Fo F1 A:¥TOROKU.DIC

■ 登録単語の取り出し（FMNoteBookのみ）

●ユーザ辞書内の登録単語を取り出す

```
DICUTY /F 登録単語ファイルのパス名ファイル名
```

または、

```
DICUTY /Fm 登録単語ファイルのパス名ファイル名
```

< 例 > DICUTY /F A:¥TOROKU.DIC または、
DICUTY /Fm A:¥TOROKU.DIC

■ 登録単語の取り込み

取り出した登録単語ファイルの内容を、現在使用している辞書に登録します。

```
DICUTY /E 登録単語ファイルのパス名ファイル名
```

< 例 > DICUTY /E A:¥TOROKU.DIC

■ ユーザ辞書の取り出し（FMNoteBookのみ）

```
DICUTY - ユーザ辞書ファイルのパス名ファイル名
```

< 例 > ユーザ辞書ファイル名をJISHO.DICとした場合
DICUTY - A:¥JISHO.DIC

■ ユーザ辞書の本体内メモリへの読み込み（FMNoteBookのみ）

```
DICUTY + ユーザ辞書ファイルのパス名ファイル名
```

< 例 > ユーザ辞書ファイル名をJISHO.DICとした場合
DICUTY + A:¥JISHO.DIC

単語登録を行う際は、OAKが組み込まれている必要があります。

参考

FMNoteBookを長時間使用しなかったときは、FMNoteBook本体内メモリのユーザ辞書が消えている場合があります。そのときはユーザ辞書(OAKUSR.DIC)か、他のディスクに保存しておいたユーザ辞書を本体内メモリに読み込ませてください。

➔1章　1-2.「FMNoteBookでOAKを使うための準備をする」(P.6)

OAKの環境の設定

ＯＡＫを使用するために必要な設定と、ＯＡＫの動作環境の設定のしかたについて説明します。

4-1 OAKを使用するための設定

OAKを使用するには、特定の設定を行う必要があります。ここでは、OAKを使用するために必要な設定について説明します。なお、FMNoteBookをお使いの方は、まず「1章 1-2. FMNoteBookでOAKを使うための準備」をお読みください。

●拡張メモリの設定

FMNoteBook以外の機種でOAKを使用するには、パソコン本体内の拡張メモリを使用できるようにする必要があります。この設定にはMS-DOSに添付のSETUP2コマンドを使用します。

SETUP2コマンドの拡張メモリの設定でアプリ領域1とアプリ領域2を登録します。

SETUP2コマンドの使用方法については、『日本語MS-DOS® V5.0 ユーザーズリファレンス』を参照してください。

ただし、FMNoteBookではこの指定をする必要はありません。

FMNoteBook以外の機種では、アプリ領域1とアプリ領域2をどちらも登録する必要があります。

●必要なファイル

OAKを使用するには、以下の6個のファイルが全て必要です。MS-DOSに添付のSETUPコマンドにてインストールしてください。SETUPコマンドの使用方法については、『日本語MS-DOS® V5.0 セットアップガイド』を参照してください。

CTL.SYS … プログラムファイル
KKCFUNC.SYS … プログラムファイル
OAK0.SYS … プログラムファイル
OAK1.SYS … プログラムファイル
MSKANJI.SYS … プログラムファイル
OASYS.DIC … 辞書ファイル（FMNoteBook以外の機種）

- 辞書ファイルOASYS.DICは、必ずルートディレクトリに置いてください。
- FMNoteBookでは、辞書は本体内に内蔵されていますので、OASYS.DICは使用できません。

●プログラムファイルの組み込み
OAKを使用する為には、前記のプログラムファイルをMS-DOSに組み込む必要がありま す。プログラムファイルを組み込むには、二とおりの方法があります。

(1) CONFIG.SYSファイルによる組み込み
MS-DOS起動時には、MS-DOSのプログラムファイルが読み込まれます。このとき、OAKのプログラムファイルも一緒に読み込むよう指定すると、MS-DOSの起動時からOAKを使用することができます。なおCONFIG.SYSファイルの詳細については、『日本語MS-DOS® V5.0 ユーザーズガイド』を参照してください。
MS-DOSの起動ドライブにあるCONFIG.SYSファイルの中に、次のような行が必要です。

```
DEVICE=CTL.SYS
DEVICE=KKCFUNC.SYS
DEVICE=OAK0.SYS
DEVICE=OAK1.SYS
DEVICE=MSKANJI.SYS
```

・必ず上記の5個のファイルを上の順番で記述してください。

(2) ADDDRVコマンドによる組み込み
MS-DOSに添付のADDDRVコマンド・DELDRVコマンドを使用してOAKを組み込んだり取り外したりすることができます。
必要があればOAKをMS-DOSに組み込んで使用し、メモリが足りなくなった場合は一時的にOAKを取り外し、使用可能なメモリを増やすことができます。
ADDDRVコマンド・DELDRVコマンドの使用方法については、『日本語MS-DOS® V5.0 ユーザーズリファレンス』を参照してください。

ADDDRVコマンドでOAKを組み込む場合は、MS-DOSの起動ドライブにあるCONFIG.SYSファイルの中に、次のような行が必要です。

```
DEVICE=CTL.SYS
DEVICE=KKCFUNC.SYS
```

ADDDRVコマンドで指定するファイルには、下の行が必要です。

```
DEVICE=OAK0.SYS
DEVICE=OAK1.SYS
DEVICE=MSKANJI.SYS
```

OAKを組み込む場合は、ADDDRVコマンドを使用します。
この時点でOAKは使用可能になります。組み込み方法は以下のとおりです。

```
ADDDRV　ファイル名
```

＜例＞

1）CONFIG.SYSファイルにCTL.SYSとKKCFUNC.SYSを追加します。

```
DEVICE=CTL.SYS
DEVICE=KKCFUNC.SYS
DEVICE=GDS.SYS
     ⋮
```

CONFIG.SYSファイルの内容

2）EDIASなどのエディタを使って、ルートディレクトリにファイルを作成し、以下の３行を記述します。ここでは、ファイル名を“DEVS”とします。

```
DEVICE=HCOPY.SYS
     ⋮
DEVICE=OAK0.SYS
DEVICE=OAK1.SYS
DEVICE=MSKANJI.SYS
```

ADDDRVコマンドで指定するファイル（DEVS）の内容

3）組み込みを行う場合は以下のように入力します。

```
ADDDRV DEVS
```

これで、 OAKを使用できる状態になります。

OAKを取り外す場合は、DELDRVコマンドを使用しOAKを取り外します。
この時点でOAKは使用できなくなります。取り外し方法は以下のとおりです。

```
DELDRV
```

・CONFIG.SYSファイルには、CTL.SYS・KKCFUNC.SYSの２個のファイルを記述する必要があります。

・ADDDRVコマンドで指定するファイルには、OAK0.SYS・OAK1.SYS・MSKANJI.SYSの３個のファイルを記述する必要があります。
OAK0.SYS・OAK1.SYS・MSKANJI.SYSは必ずこの順番で記述してください。

参考

AUTOEXEC.BATの中でADDDRVコマンドを使用してOAKを組み込むことによって、MS-DOSの起動時からOAKを使用可能にすることもできます。

4-2 OAKの動作環境の設定

OAKは、その動作環境を自由に設定できるようになっています。ここでは、OAKの動作環境にはどんなものがあるか、また、それをどのように設定するかを説明します。

OAKの動作環境

OAKでは、次のような動作環境を設定できます。

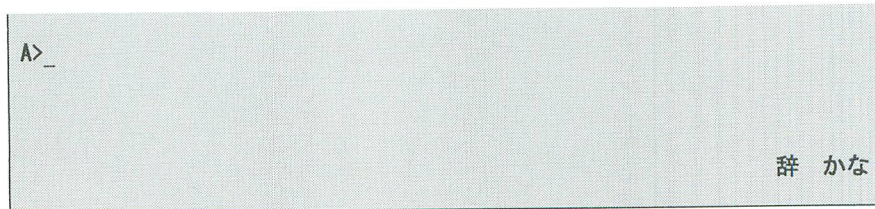
●表示モード

表示モードとは、ひらがなを入力してかな漢字変換するとき、入力した文字と変換中の漢字を画面のどの位置に表示するかを指定するものです。次の2つのどちらかを指定します。

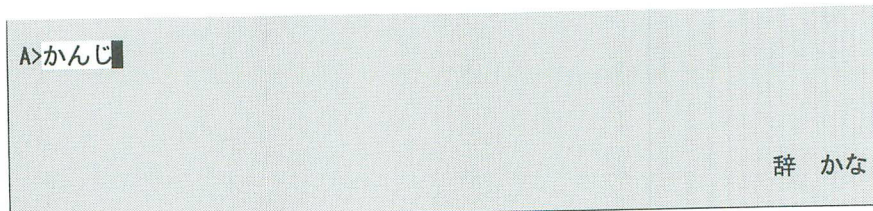
(1) スクリーンモード

ひらがなや変換中の漢字を、そのときのカーソルの位置に表示します。

```
A>_

                                                辞　かな
```

例えば、前記の画面で、ひらがなで「かんじ」と入力すると、次のように表示されます。

```
A>かんじ■

                                                辞　かな
```

また、さらに 変換 キーを押すと次のように表示されます。

```
A>漢字█

                                                    辞　かな
```

(2)　**システム行モード**

このモード指定すると、ひらがなや変換中の漢字を、画面の1番下の行に表示します。画面の1番下の行は、 OAKの入力状態や入力に関するメッセージが表示されるので、システム行と呼ばれます。このとき、ひらがなは40文字まで入力できますが、先頭の35文字しか表示されません。

例えば、上記の画面で、ひらがなで「かんじ」と入力すると、次のように表示されます。

```
A>


かんじ█                                              辞　かな
```

また、さらに [変換] キーを押すと次のように表示されます。

```
A>


漢字█                                                辞　かな
```

漢字が確定すると、次のようになります。

```
A>漢字_

                                                        辞　かな
```

●半角文字／全角文字

キーを押して入力できる文字を、半角文字にするか全角文字にするかを指定します。

➔１章　1-3.　「OAKの入力状態」(P. 10)

●ローマ字かな変換機能

かなを入力する方法を、次の２つのうちから指定します。

(1)　キーに置かれている文字を直接入力する

(2)　ローマ字で入力する

➔１章　1-3.　「OAKの入力状態」(P. 10)

●シフトモード

キーを押して入力できる文字の種類を、次の中から指定します。

　　英小　英大　かな　カナ　ａｌ　ＡＬ

なお、「ａｌ」「ＡＬ」は親指シフトキーボードで使用しているときだけ指定できます。

➔１章　1-3.　「OAKの入力状態」(P. 10)

●全角空白

全角文字の空白を、全角空白１文字で表すか、半角空白２文字で表すかを指定します。

●高輝度

OAKが表示するメッセージ、未確定文字列、選択候補などを高輝度で行うかどうかを指定します。

●辞書ドライブ

辞書をどのディスクドライブにセットして使用するかを指定します。

ただし、FMNoteBookでは、本体内の辞書をいつも使用するので、辞書ドライブの指定を行っても有効にはなりません。

OAKの動作環境を変える

OAKは、起動時や使用中に動作環境を変えることができます。ここではその方法を説明します。

●OAKの起動時の動作環境の設定

MS-DOS起動時のOAKの動作環境を設定しておくことができます。これにより、MS-DOS起動後に毎回入力状態などを設定し直す必要がなくなります。
例えば、かなをいつもローマ字で入力する場合には、起動時の入力状態をローマ字入力にしておくと便利です。

●OAKの環境設定パラメータ

MS-DOS起動時のOAKの動作環境は、MS-DOSのCONFIG.SYSファイルの中に、次のような形式で設定します。

```
DEVICE=OAK0.SYS /EN
DEVICE=OAK1.SYS /S□ /K□ /R□ /M□ /B□ /L□ /□:/EN
```

上記の記述のアンダーラインの部分を、 OAKの環境設定パラメータといいます。□には動作環境の指定値が、半角文字の数字または英字で入ります。
動作環境の指定値は次のとおりです。

動作環境	パラメータ	指　定　値	初期値
表示モード	/S□	スクリーンモード：0 システム行モード：1	0
半角文字／全角文字	/K□	半角文字：0 全角文字：1	0
ローマ字かな変換機能	/R□	しない：0 する：1	0
シフトモード	/M□	かな：0　カナ：1 英大：2　英小：3 ａｌ：4　ＡＬ：5	3
全角空白	/B□	半角空白２文字：0 全角空白１文字：1	0
高輝度	/L□	する：0 しない：1	0
辞書ドライブ	/□:	Ａ～Ｐ	起動ドライブ
ＥＭＳ	/EN	ＥＭＳを使用しない	

※入力状態の表示は/L□オプションで高輝度を指定しても、通常の輝度になります。
※EMSはOAKが環境をチェックし使用可能であれば自動的に使用します。OAKがEMSを使用する条件は以下のとおりです。
(1)EMM386.EXEを使用している（CONFIG.SYSファイルの中をEMM386.EXEが先に設定されている）。
(2)EMSメモリの空きが以下の条件の場合。ただし前記の/ENを指定するとEMSは使用しません。
- OAK0.SYSの場合：16KB以上（FMNoteBookでは48KB以上）の空きがある。
- OAK1.SYSの場合：48KB以上の空きがある。

なお、パラメータは省略することもでき、この場合は前記の表にある初期値のパラメータが指定されたとみなされます。
例えば、MS-DOSのCONFIG.SYSファイルの中に、次のような形式で設定したときは、MS-DOS起動時のOAKの動作環境は次のようになります。

```
DEVICE=OAK0.SYS
DEVICE=OAK1.SYS /S1 /K1 /B1 /L1 /B:
```

表示モード	……	システム行モード
半角文字／全角文字	……	全角文字
ローマ字かな変換機能	……	しない
シフトモード	……	英小
全角空白	……	全角空白1文字
高輝度	……	しない
辞書ドライブ	……	ドライブB
EMSメモリ	……	OAK0.SYS,OAK1.SYSとも使用可能であれば自動的に使用する

参考
CONFIG.SYSファイルについての詳細は、『日本語MS-DOS®V5.0ユーザーズガイド』を参照してください。

- OAK0.SYS,OAK1.SYSともにEMSを使用する場合は、EMSメモリの空きが64KB以上（FMNoteBookでは96KB以上）必要です。
- EMSメモリの空きの条件は、OAK0.SYS,OAK1.SYSそれぞれ独立しています。

付録

付−1 文字入力のまとめ

入力状態のまとめ

■ 英大文字、英小文字を入力するとき

画面右下の表示	入力できる文字
「　英大」「　ＡＬ」	半角文字の英大文字
「　英小」「　ａｌ」	半角文字の英小文字
「全　英大」「全　ＡＬ」	全角文字の英大文字
「全　英小」「全　ａｌ」	全角文字の英小文字

※「al」と「AL」は親指シフトキーボードのみ

■ ひらがな、カタカナを入力するとき

画面右下の表示	入力できる文字
「　かな」「　Ｒかな」	全角文字のひらがな
「　カナ」「　Ｒカナ」	半角文字のカタカナ
「全　カナ」「全Ｒカナ」	全角文字のカタカナ

■ ローマ字かな変換機能

画面右下の表示	ローマ字かな変換機能
「Ｒ」の表示なし	ローマ字かな変換しない
「Ｒ」の表示あり	ローマ字かな変換する

■ 数字を入力するとき

画面右下の表示	入力できる文字
「全」の表示なし 「全」の表示あり	半角文字の数字 全角文字の数字

■ 漢字を入力するとき

画面右下の表示	漢字入力の可否
「辞」の表示なし 「辞」の表示あり	漢字を入力できない 漢字を入力できる

変換操作

※入力状態はいずれも「かな」（または「Rかな」）にする

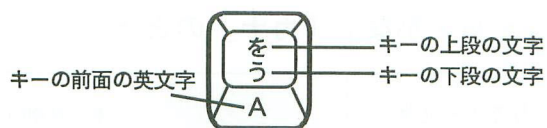
かな漢字変換をする	①漢字の読みを入力する ② [変換] キーを押す
読みで辞書を引く	①漢字の読みを入力する ② [漢字辞書] キーを押す
画数で辞書を引く	① [ＳＨＩＦＴ] キーを押しながら [か] キーを押す（親指シフト） 「か」を入力した後、「°」を入力する(JIS) ローマ字で「ＫＷＡ」と入力する（親指、JIS) ②画数を入力する ③ [漢字辞書] キーを押す
部首で辞書を引く	① [ＳＨＩＦＴ] キーを押しながら [け] キーを押す（親指シフト） 「け」を入力した後、「°」を入力する(JIS) ローマ字で「ＫＷＥ」と入力する（親指、JIS) ②部首の読みを入力する ③ [漢字辞書] キーを押す
区点コードで入力する	① [ＳＨＩＦＴ] キーを押しながら [く] キーを押す（親指シフト） 「く」を入力した後、「°」を入力する(JIS) ローマ字で「ＫＷＵ」と入力する（親指、JIS) ②区点コードを入力する ③ [漢字辞書] キーを押す

親指シフトキーボードの使いかた

■ 入力状態が「英大」「英小」のとき

入力できる文字	キーの押しかた
キーの前面の英文字	そのまま押す
キーの前面右側の記号	そのまま押す
キーの前面左側の記号	[ＳＨＩＦＴ] キーを押しながら押す
キーの前面の記号	[ＳＨＩＦＴ] キーを押しながら押す
数字	そのまま押す
「英小」のときに英大文字を	[ＳＨＩＦＴ] キーを押しながら押す
「英大」のときに英小文字を	[ＳＨＩＦＴ] キーを押しながら押す

■ 入力状態が「かな」「カナ」のとき

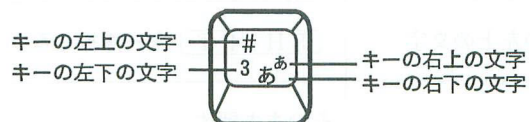
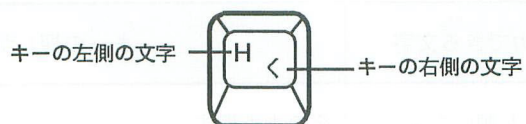
入力できる文字	キーの押しかた
キーの下段の文字	そのまま押す
キーの上段の文字	文字と同じ側の [親指左] [親指右] キーと同時に押す
濁音	文字と反対側の [親指左] [親指右] キーと同時に押す
半濁音	[親指左] キーと同時に「ぱぴぷぺぽ」を押す または、 [ＳＨＩＦＴ] キーを押しながら「はひふへほ」を押す

ＪＩＳキーボードの使いかた

■ 入力状態が「英大」「英小」のとき

入力できる文字	キーの押しかた
キーの左側の文字	そのまま押す
キーの左下の文字	そのまま押す
キーの左上の文字	［ＳＨＩＦＴ］キーを押しながら押す
数字	そのまま押す
「英小」のときに英大文字を	［ＳＨＩＦＴ］キーを押しながら押す
「英大」のときに英小文字を	［ＳＨＩＦＴ］キーを押しながら押す

■ 入力状態が「かな」「カナ」のとき

入力できる文字	キーの押しかた
キーの右側の文字	そのまま押す
キーの右下の文字	そのまま押す
キーの右上の文字	[SHIFT] キーを押しながら押す
濁音	文字キーを押し、次に [゛] キーを押す
半濁音	文字キーを押し、次に [゜] キーを押す

付-2 キー操作一覧

入力状態の設定

押すキー	機　　能
半角／全角	「全」の表示を切り換えます
かな漢字	「辞」の表示を切り換えます
ＣＴＲＬ を押しながら ローマ字	「Ｒ」の表示を切り換えます

■ 親指シフトキーボード

押すキー	機　　能
無変換	「かな」に切り換えます
変換	「かな」に切り換えます
英字	「英大」に切り換えます
カタカナ 英小文字	「かな」のときは、「カナ」に切り換えます 「英大」のときは、「英小」に切り換えます
ＣＴＲＬ を押しながら 英小文字	標準文字とａ１状態を切り換えます

■ JISキーボード

押すキー	機　　能
CAP	「英小」と「英大」を切り換えます
カタカナ	「英小」「英大」と「カナ」を切り換えます 「かな」のときは、「カナ」に切り換えます
ひらがな	「英小」「英大」と「かな」を切り換えます 「カナ」のときは、「かな」に切り換えます

変換機能

押すキー	機　　能
無変換	ひらがなの入力と、かなカタカナ変換を行います
変換	かな漢字変換を行います
CTRL を押しながら 変換	拡張変換を行います
CTRL を押しながら 無変換	ひらがなをカタカナに変換します かな漢字変換後に1つ前の変換文字を表示します
CTRL を押しながら 実行	変換中の文字列を確定します

漢字辞書機能

押すキー	機　　能
[漢字辞書]	読みに対応する漢字（記号）を表示します
[変換]	次の５文字の候補文字を表示します
[無変換]	１つ前の５文字の候補文字を表示します
[SHIFT] を押しながら [か] （親指シフト） [か] のあとで [゜] (JIS) [K] [W] [A] を押す（ローマ字入力のとき）	画数変換のための画数入力状態にします（画面に“画”と表示されます）
[SHIFT] を押しながら [け] （親指シフト） [け] のあとで [゜] (JIS) [K] [W] [E] を押す（ローマ字入力のとき）	部首変換のための部首入力状態にします（画面に“部”と表示されます）

その他の機能

押すキー	機　　能
[SHIFT] を押しながら [く]（親指シフト） [く] のあとで [°]（JIS） [K] [W] [U] を押す（ローマ字入力のとき）	区点コード入力のための区点コード入力状態（画面に“区”と表示されます）
[単語登録]	単語登録処理を開始します
[単語抹消]	単語抹消処理を行います

付-3 入力状態の移り変わり（親指シフトキーボード）

キーボードから入力できる文字は、画面右下に表示されている入力状態によって決まります。

入力状態	入力できる文字
英大	英大文字
英小	英小文字
かな	ひらがな
カナ	カタカナ

参考

「英小」と「ａ１」について

「英小」と「ａ１」では、入力できる文字はいずれも英小文字ですが、使い方が違います。通常、親指シフトキーボードでは、英小文字を入力する際には、入力状態を「英大」にしてから「英小」としますので、英小文字を中心に使われる方には多少不便です。そこで、「ａ１」という入力状態を用意しました。いったん、［ＣＴＲＬ］キーを押しながら［英小文字］キーを押して「ａ１」と表示させると、その後は［英字］キーを押すだけで、英字がいつも小文字で入力できます。英小文字を中心に使う方には、大変便利です。

入力状態の切り換え

■ 標準状態では

どんなときにも［英字］キーを押すと、「英大」になります。

「英大」のときに［英小文字］キーを押すと、「英小」になります。

どんなときにも［変換］キー（または［無変換］キー）を押すと、「かな」になります。

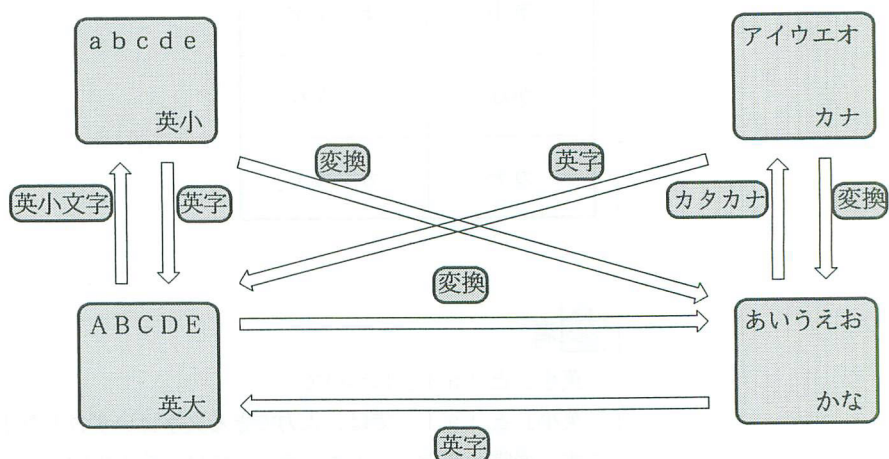
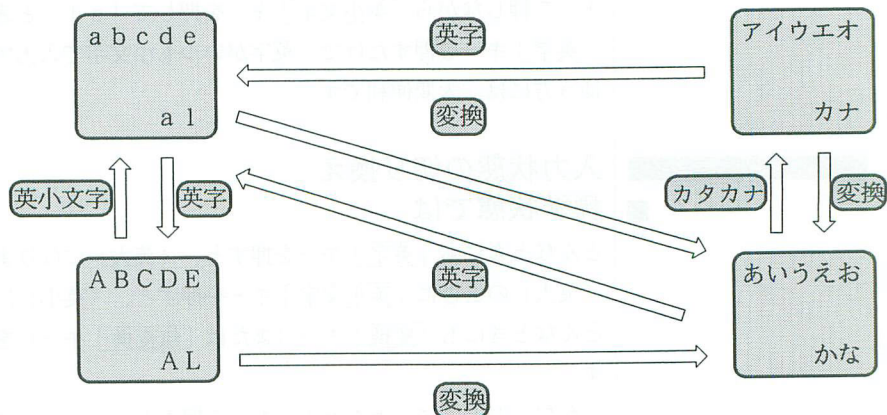
「かな」のときに［カタカナ］キーを押すと、「カナ」になります。

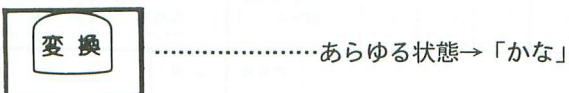
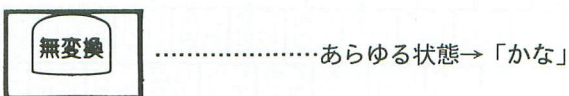
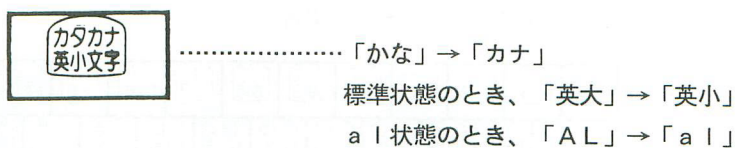
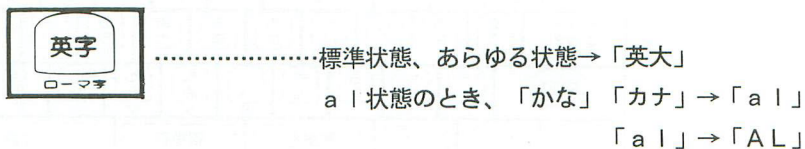
■ a l 状態では

「かな」「カナ」のときに 英字 キーを押すと、「a l」になります。
「AL」のときに 英小文字 キーを押すと、「a l」になります。
「a l」のときに 英字 キーを押すと、「AL」になります。
どんなときにも 変換 キー（または 無変換 キー）を押すと、「かな」になります。
「かな」のときに カタカナ キーを押すと、「カナ」になります。

■ 標準状態とa l 状態の切り換え

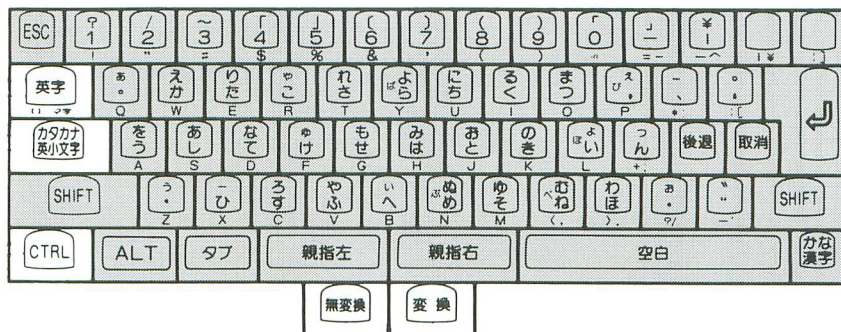
標準状態で CTRL キーを押しながら 英小文字 キーを押すと、a l 状態になります。

〔標準状態〕

〔a l 状態〕

変換 キーのところは 無変換 キーを押しても同じ働きをします。

入力状態を切り換えるキーの位置

参考

環境設定パラメータで入力状態を「AL」に指定した場合、設定時のみ「AL」となりますが、後はa 1状態と同じ入力状態の切り換えとなります。

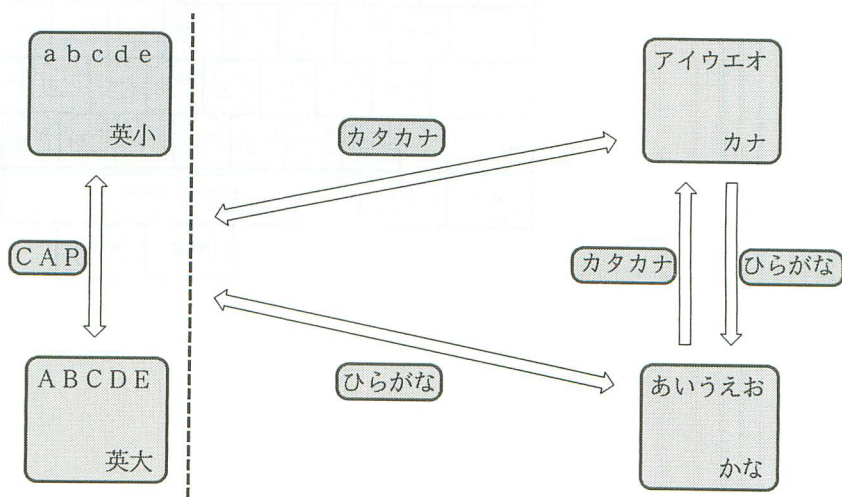
＜FM R-70Σ/50Λ/50ΛLX用キーボードの場合＞

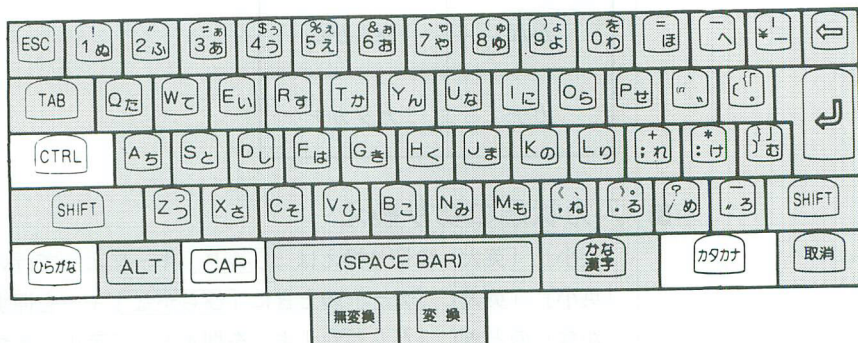
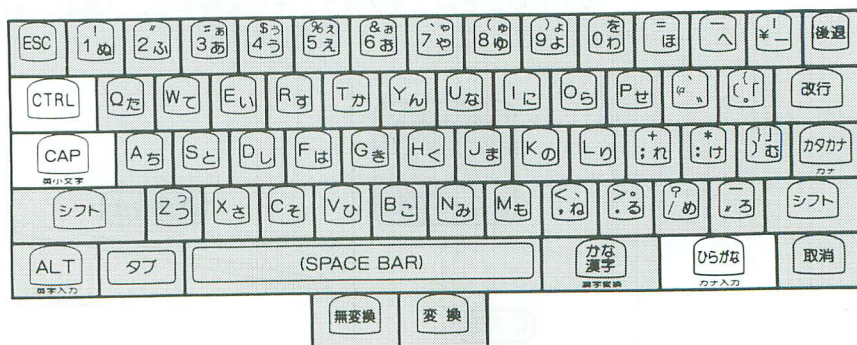
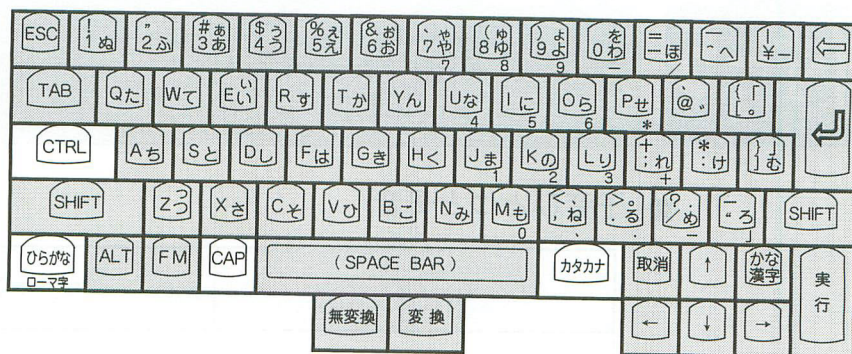
＜FMNoteBookのキーボードの場合＞

付－4 入力状態の移り変わり（ＪＩＳキーボード）

キーボードから入力できる文字は、画面右下に表示されている入力状態によって決まります。

入力状態	入力できる文字
英大	英大文字
英小	英小文字
かな	ひらがな
カナ	カタカナ

■ 入力状態の切り換え

「英小」「英大」の切り換えは ＣＡＰ キーによって行います。
「英小」「英大」「カナ」のときに ひらがな キーを押すと、「かな」になります。
「かな」のときに ひらがな キーを押すと、「英小」または「英大」になります。
「英小」「英大」「かな」のときに カタカナ キーを押すと、「カナ」になります。
「カナ」のときに カタカナ キーを押すと、「英小」または「英大」になります。

■ 入力状態を切り換えるキーの位置

＜FM R-70Σ/50Λ/50ΛLX用キーボードの場合＞

＜FMNoteBookのキーボードの場合＞

付-5 ローマ字／かな対応表

■ 子音ひとつと母音

文		字			ローマ字入力				
あ	い	う	え	お	A	I	U	E	O
ぁ	ぃ	ぅ	ぇ	ぉ	LA	LI	LU	LE	LO
か	き	く	け	こ	KA	KI	KU	KE	KO
さ	し	す	せ	そ	SA	SI	SU	SE	SO
た	ち	つ	て	と	TA	TI	TU	TE	TO
な	に	ぬ	ね	の	NA	NI	NU	NE	NO
は	ひ	ふ	へ	ほ	HA	HI	HU	HE	HO
ま	み	む	め	も	MA	MI	MU	ME	MO
や	い	ゆ	いぇ	よ	YA	YI	YU	YE	YO
ら	り	る	れ	ろ	RA	RI	RU	RE	RO
わ	うぃ	う	うぇ	を	WA	WI	WU	WE	WO
が	ぎ	ぐ	げ	ご	GA	GI	GU	GE	GO
ざ	じ	ず	ぜ	ぞ	ZA	ZI	ZU	ZE	ZO
だ	ぢ	づ	で	ど	DA	DI	DU	DE	DO
ば	び	ぶ	べ	ぼ	BA	BI	BU	BE	BO
ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ	PA	PI	PU	PE	PO
ふぁ	ふぃ	ふ	ふぇ	ふぉ	FA	FI	FU	FE	FO
じゃ	じ	じゅ	じぇ	じょ	JA	JI	JU	JE	JO
ゔぁ	ゔぃ	ゔ	ゔぇ	ゔぉ	VA	VI	VU	VE	VO

■ 子音とYと母音

文字					ローマ字入力				
ゃ	ぃ	ゅ	ぇ	ょ	LYA	LYI	LYU	LYE	LYO
きゃ	きぃ	きゅ	きぇ	きょ	KYA	KYI	KYU	KYE	KYO
しゃ	しぃ	しゅ	しぇ	しょ	SYA	SYI	SYU	SYE	SYO
ちゃ	ちぃ	ちゅ	ちぇ	ちょ	TYA	TYI	TYU	TYE	TYO
ちゃ	ちぃ	ちゅ	ちぇ	ちょ	CYA	CYI	CYU	CYE	CYO
にゃ	にぃ	にゅ	にぇ	にょ	NYA	NYI	NYU	NYE	NYO
ひゃ	ひぃ	ひゅ	ひぇ	ひょ	HYA	HYI	HYU	HYE	HYO
ふゃ	ふぃ	ふゅ	ふぇ	ふょ	FYA	FYI	FYU	FYE	FYO
みゃ	みぃ	みゅ	みぇ	みょ	MYA	MYI	MYU	MYE	MYO
りゃ	りぃ	りゅ	りぇ	りょ	RYA	RYI	RYU	RYE	RYO
ぎゃ	ぎぃ	ぎゅ	ぎぇ	ぎょ	GYA	GYI	GYU	GYE	GYO
じゃ	じぃ	じゅ	じぇ	じょ	ZYA	ZYI	ZYU	ZYE	ZYO
じゃ	じぃ	じゅ	じぇ	じょ	JYA	JYI	JYU	JYE	JYO
ぢゃ	ぢぃ	ぢゅ	ぢぇ	ぢょ	DYA	DYI	DYU	DYE	DYO
びゃ	びぃ	びゅ	びぇ	びょ	BYA	BYI	BYU	BYE	BYO
ぴゃ	ぴぃ	ぴゅ	ぴぇ	ぴょ	PYA	PYI	PYU	PYE	PYO

■ 子音とHと母音

文字					ローマ字入力				
しゃ	し	しゅ	しぇ	しょ	SHA	SHI	SHU	SHE	SHO
ちゃ	ち	ちゅ	ちぇ	ちょ	CHA	CHI	CHU	CHE	CHO
てゃ	てぃ	てゅ	てぇ	てょ	THA	THI	THU	THE	THO
でゃ	でぃ	でゅ	でぇ	でょ	DHA	DHI	DHU	DHE	DHO

■「ん」、「つ」、「っ」（促音）、「ー」（長音）

文　字	ローマ字入力
ん	〔N＋N〕または〔N＋N以外の子音〕 「ん」の使用例 ONN　「おん」 ONNA　「おんあ」 ONNNA　「おんな」 TONDA　「とんだ」
つ	TSU TU
っ	MM LL KK YY などN以外の子音を２度入力します
ー	[ー] キー、[X] キーを押します

■「、」「。」（句読点）

文　字	ローマ字入力
、	[、] キーを押します
。	[。] キー、[Q] キーを押します

付-6 部首の読み

ここでは、部首で漢字辞書を引くときに使う「部首の読み」をまとめました。
部首で漢字辞書を引く方法の詳細は、「２章　2-6.　漢字の入力(2) ―― 漢字辞書」の中の「部首で変換する」で解説していますので、ここではその概略を述べます。

1 入力状態を「かな」にします。

2 [かな漢字] キーを押し、画面右下に「辞」と表示されていることを確かめます。「全」の表示はあってもなくても構いません。

3 親指シフトキーボードのときは、[ＳＨＩＦＴ] キーを押しながら、[け] キーを押します。JISキーボードのときは、[け] と入力したあと続けて [゜] キーを押します。ローマ字入力のときは、[Ｋ] [Ｗ] [Ｅ] を押します。「部」という文字が入力されます。

4 入力したい漢字の部首の読みを入力します。

5 [漢字辞書] キーを押します。画面の一番下の行に、入力した部首の漢字が５文字表示されます。

6 入力したい漢字が表示されなかったときは、続けて何回か [変換] キーを押します。

7 入力したい漢字が表示されている状態で、入力したい漢字の前に表示されている数字を入力します。

8 次の文字の入力を始めると、表示されている漢字が確定します。

番号	部首	読み	字例
一画			
1	一	いち・よこいち	一画
2	丨	ぼう・たてぼう	个中卯串
3	丶	てん	丶丼之主丸
4	丿	の・のかんむり・のめ	丿乃希喬乏
5	乙	おつ・おつにょう・れ	乙九也乳乾
6	亅	はねぼう	亅了争事
二画			
7	二	に	二弐井亜五
8	亠	なべぶた・けいさんかんむり・けいさん	亡市夜京交
9	人	ひと・ひとやね・ひとがしら・にんべん・やね	人会企仮傷
10	儿	ひとあし・にんにょう	兄兜先兆元
11	入	いる・いりやね・いりがしら	入兩
12	八	はち・はちがしら	八六公典共
13	冂	えんがまえ・どうがまえ・けいがまえ・まきがまえ	円周同内
14	冖	わかんむり	冠冗軍冥
15	冫	にすい	次凄凍凌
16	几	つくえ	凡鳳凱凧
17	凵	うけばこ・かんにょう・かんがまえ	凹凶出
18	刀	かたな・やいば・りっとう	刀刃券剣割
19	力	ちから・りきづくり・りょく・りき	力劣加助勢
20	勹	つつみがまえ・ほうがまえ・く	句久危争
21	匕	さじのひ	北旨疑
22	匚	はこがまえ	匚巨匹匪
23	匸	かくしがまえ	匸
24	十	じゅう	十千真幹協
25	卜	ぼくのと・うらない	卜卞卦占
26	卩	ふしづくり・わりふ・せつづくり	卩印即卵却
27	厂	がんだれ	厂圧暦
28	厶	む	厶台去弁参
29	又	また・ま	又叉友叙反勇
三画			
30	口	くち・くちへん	口吞可右噂
31	囗	くにがまえ	囗囮園国嗇
32	土	つち・つちへん・どへん	土幸圭均坐在
33	士	さむらい	士壺喜売壱
34	夂	ふゆがしら	夂冬変夏
35	夊	すいにょう	夊夏
36	夕	ゆうべ・ゆう	夕多外
37	大	だい・だいかんむり	大太央奇奥天
38	女	おんな・おんなへん	女嫁姦妻
39	子	こ・こへん	子孔季存孟
40	宀	うかんむり	宀安
41	寸	すん・すんづくり	寸寿寺将対導
42	小	ちいさい・しょう・しょうかんむり・なおがしら・つ	小少営学輝
43	尢	まげあし・だいのまげあし	尢尤就尨
44	尸	しかばね・しかばねだれ・しかばねかんむり	尸履尺屍局
45	屮	てつ	屯
46	山	やま・やまへん・やまかんむり	山岸崎岡島
47	巛	まがりがわ・かわ・さんぼんがわ	巛川州
48	工	たくみ・たくみへん	工巧左差巫
49	己	おのれ	己巴巷巻
50	巾	はば・はばへん・きんべん	巾布幅師帯帽
51	干	ほす・かん・いちじゅう	干年平并
52	幺	いとがしら・よう	幺幾幻幼
53	广	まだれ	广広府廓度
54	廴	えんにょう・いんにょう	延建
55	廾	にじゅうあし	廾弊彝
56	弋	しきがまえ・いぐるみ	弋式武鳶弑
57	弓	ゆみ・ゆみへん	弓引弔弟弖
58	彐	けいがしら・よ	彐尋彗
59	彡	さんづくり・けかざり	彡彰影形
60	彳	ぎょうにんべん	御後従住

番号	部首	読　　み	字　　例
四　　画			
61	心	こころ・したごころ・りっしんべん	心憶快必悪
62	戈	かのほこ・ほこ・ほこがまえ・ほこづくり	戈成或戒戦
63	戸	とびらのと・とだれ・とかんむり・と	戸戻肩所扁扉
64	手	て・てへん	手才撃指挙承
65	支	じゅうまた・しにょう・えだにょう	支
66	攴	とまた・ぼくにょう・ぼくづくり・のぶん	攵攴改数
67	文	ぶん・ぶんにょう	文斐斑斌
68	斗	とます・ますづくり	斗魁斜
69	斤	きん・おのつくり・おのづくり	斤新欣
70	方	ほう・ほうへん	方於旅旗施
71	无	すでのつくり・むにょう	旡无既
72	日	にち・ひへん・にちへん	日暖早春時最
73	曰	ひらび・いわく	曰曳曲曵曷
74	月	つき・つきへん	月期朝有朗豚
75	木	き・きへん	木呆杏榎東
76	欠	かける・あくび・けんづくり	欠歌欧欲
77	止	とめる・とめへん	止此歳正整
78	歹	いちた・がつへん・かばねへん	歹残死
79	殳	るまた	殳殴殺段殿
80	毋	なかれ・はは	毋毌毒毎
81	比	くらべるひ・くらべる	比
82	毛	け	毛毬毯
83	氏	うじ	氏民
84	气	きがまえ	气氣氛気
85	水	みず・したみず・さんずい	水泰氷汝永求
86	火	ひ・れっか・れんが・れんか・よってん・よつてん	火炎為燃烈無
87	爪	つめ・つめかんむり・つめがしら・のつ	爪愛受妥爬
88	父	ちち	父斧釜爺

番号	部首	読　　み	字　　例
89	爻	めめ・こう・まじわる	爻爼
90	爿	しょうへん	爿状牀壮
91	片	かた・かたへん	片牌
92	牙	きば・きばへん	牙
93	牛	うし・うしへん	牛特
94	犬	いぬ・いぬへん・けもの・けものへん	犬猿
五　　画			
95	玄	げん	玄畜
96	玉	たま・おう・おうへん・たまへん	王玉聖琴理
97	瓜	うり	瓜瓢
98	瓦	かわら・かわらづくり	瓦瓶甎
99	甘	あまい	甘某
100	生	うまれる・うむ・いきる	生甦甥
101	用	もちいる	用甫甬
102	田	た・たへん	田界町番申甲
103	疋	ひき・ひきへん	疋疏疎楚
104	疒	やまいだれ	病癩痛疾癌
105	癶	はつがしら	癶登発癸發
106	白	しろ・はくへん	白的皆皇
107	皮	ひのかわ・けがわ・かわつくり	皮皸皹皺
108	皿	さら	皿監益盛
109	目	め・めへん	目睡県省
110	矛	むのほこ・ほこへん	矛柔務
111	矢	や・やへん	矢知短矣
112	石	いし・いしへん	石磯
113	示	しめす・しめすへん・ねへん	示社祈祇票
114	禸	ぐうのあし	禺禹
115	禾	のぎ・のぎへん	禾委私税和
116	穴	あな・あなかんむり	穴究
117	立	たつ・たつへん	立産靖竜章

番号	部首	読　　み	字　例
六　画			
118	竹	たけ・たけかんむり	竹笑籍答笹
119	米	こめ・こめへん・よねへん	米粟粒糞粋
120	糸	いと・いとへん	糸絢
121	缶	ほとぎ・ほとぎへん・みずがめ・ほとぎもたい	缶罐缺罎
122	网	あみかしら・あみめ・よんがしら	网罫罕
123	羊	ひつじ・ひつじへん	羊美義羨群
124	羽	はね	羽翌翁翻翔
125	老	おい・おいかんむり・おいがしら	老孝者
126	而	しかして	而耐
127	耒	らいすき・すきへん・らいへん	耒耕耗
128	耳	みみ・みみへん	耳職聖取
129	聿	ふでづくり	聿肇肆書
130	肉	にく・にくづき	肉腱脣臉臟
131	臣	しん・おみ	臣臨
132	自	みずから	自臭
133	至	いたる	至到
134	臼	うす	臼興
135	舌	した・したへん	舌辞乱舐舗
136	舛	ます・まいあし	舛舞
137	舟	ふね・ふねへん	舟船般艇艦
138	艮	こん・こんづくり	艮良
139	色	いろ	色艶
140	艸	くさ・そうこう・くさかんむり	艸葵若蘇荒
141	虍	とらがしら・とらかんむり	虍虎虐虜虚
142	虫	むし・むしへん	虫蚕蛙蜀虱
143	血	ち	血衆
144	行	ぎょう・ゆきがまえ・ぎょうがまえ	行街術衛
145	衣	ころも・ころもへん	衣初被表製
146	西	にし	西襾覆覇要

番号	部首	読　　み	字　例
七　画			
147	見	みる	見親覧規観
148	角	つの・つのへん	角触解觜
149	言	ことば・ごんべん	言警訓誠論
150	谷	たに・たにへん	谷谺谿欲
151	豆	まめ・まめへん	豆豊豈豌
152	豕	いのこ・いのこへん	豕豪
153	豸	むじな・むじなへん	豸豹貊貌
154	貝	かい・かいへん・こがい	貝財貫
155	赤	あか	赤赫
156	走	はしる・そうにょう	走赱趣超
157	足	あし・あしへん	足跡
158	身	み・みへん	身射躾
159	車	くるま・くるまへん	車軸輩轟輪
160	辛	からい	辛辟辣
161	辰	しんのたつ	辰辱農
162	辶	しんにゅう・しんにょう	辶逢随進
163	邑	むら・おおざと	邑郭
164	酉	さけのとり・ひよみのとり・さけづくり・こよみのとり	酉醜醸醬
165	釆	のごめ・のごめへん	釆釈
166	里	さと・さとへん	里野
八　画			
167	金	かね・かねへん	金錦釜
168	長	ながい	長
169	門	もん・もんがまえ・かどがまえ	門閂関闘閉
170	阜	ぎふのふ・こざとへん・こざと	阜隆
171	隶	れいづくり	隶隷隸
172	隹	ふるとり	隹雅雑難隼
173	雨	あめ・あめかんむり	雨雲
174	青	あお	青静
175	非	あらず	非靠

番号	部首	読　　み	字　　例
九　　画			
176	面	めん・おもて	面靨靦
177	革	かくのかわ・つくりかわ・つくりがわ	革靴鞭
178	韋	なめしがわ	韋韓
179	韭	にら	韭韲齏
180	音	おと・おん	音響韻
181	頁	おおがい・いちのかい・ぺーじ	頁頃題
182	風	かぜ	風飄飃
183	飛	とぶ	飛
184	食	しょく・たべる・しょくへん	食飴養飲飾
185	首	くび	首
186	香	においこう・におい・かおり・か	香馥馨
十　　画			
187	馬	うま・うまへん	馬驚騒驫
188	骨	ほね・ほねへん	骨骸髑髏髄
189	高	たかい	高
190	髟	かみがしら・かみかんむり	髟髪
191	鬥	とうがまえ・たたかいがまえ	鬥鬪鬧鬮
192	鬯	ちょう	鬯鬱
193	鬲	かく・れき	鬲融
194	鬼	おに・きにょう	鬼魅魂
十　一　画			
195	魚	うお・うおへん・さかな・さかなへん	魚鮫鯊魯
196	鳥	とり・とりづくり・とりへん	鳥鳩鶯鴃梟

番号	部首	読　　み	字　　例
197	鹵	ろ・しお	鹵鹸鹹鹽
198	鹿	しか	鹿塵麗麓
199	麦	むぎ・ばくにょう・むぎへん	麦麺麥
200	麻	あさ・あさかんむり	麻摩
十　二　画			
201	黄	きいろ	黄
202	黍	きび	黍
203	黒	くろ	黒墨黔
204	黹	ふつ	黹黼
十　三　画			
205	黽	べん	黽鼇鼈
206	鼎	かなえ	鼎
207	鼓	つづみ	鼓皷鼕
208	鼠	ねずみ	鼠鼬
十　四　画			
209	鼻	はな・はなへん	鼻鼾
210	齊	せい	斉齊
十　五　画			
211	齒	は・はへん	齒齢齧齶齞
十　六　画			
212	龍	りゅう	龍襲龕
213	亀	かめ	亀龜
十　七　画			
214	龠	やく	龠

付−7 記号とギリシア文字の読み

単語読み	記号	単語読み	記号
「のま」「どう」「とう」	々	「しかく」「くろしかく」	■
「くりかえしきごう」		「さんかく」	△ ▽
「どう」「とう」	〃	「さんかく」「くろさんかく」	▲ ▼
「くりかえしきごう」		「こめじるし」	※
「しめ」	〆	「みぎや」	→
「ぎもんふ」	?	「ひだりや」	←
「かんたんふ」	!	「うえや」	↑
「たす」「ぷらす」	+	「したや」	↓
「ひく」「まいなす」	−	「えん」	¥
「ぷらすまいなす」	±	「どる」	$
「かける」	×	「せんと」	¢
「わる」	÷	「ぽんど」	£
「いこーる」「わ」「とうごう」	=	「ぱーせんと」	%
「のっといこーる」	≠	「どしー」	℃
「ふとうごう」	< > ≦ ≧	「ど」	°
「ゆえに」	∴	「ふん」	′
「おす」	♂	「びょう」	″
「めす」	♀	「ゆうびん」	〒
「しろぼし」「ほし」	☆	「だいかっこ」	[ ]
「くろぼし」「ほし」	★	「ちゅうかっこ」	{ }
「まる」	○	「すみつきかっこ」	【 】
「くろまる」「まる」	●	「よこか」	ヵ
「にじゅうまる」	◎	「よこけ」	ヶ
「ひしがた」	◇	「よこわ」	ゎ ヮ
「ひしがた」「くろひしがた」	◆	「しゃーぷ」	♯
「しかく」	□	「ふらっと」	♭

単　語　読　み	記　号	単　語　読　み	記　号
「おんぷ」	♪	「にゅー」	Ν　ν
「あるふぁ」	Α　α	「くざい」	Ξ　ξ
「べーた」	Β　β	「おみくろん」	Ο　ο
「がんま」	Γ　γ	「ぱい」	Π　π
「でるた」	Δ　δ	「ろー」	Ρ　ρ
「いぷしろん」	Ε　ε	「しぐま」	Σ　σ
「つぇーた」	Ζ　ζ	「たう」	Τ　τ
「いーた」	Η　η	「うぷしろん」	Υ　υ
「しーた」	Θ　θ	「ふぁい」	Φ　φ
「いおた」	Ι　ι	「かい」	Χ　χ
「かっぱ」	Κ　κ	「ぷしい」	Ψ　ψ
「らむだ」	Λ　λ	「おめが」	Ω　ω
「みゅー」	Μ　μ		

付-8 漢字辞書を使って入力する記号の読み

漢字読み	記号
記述記号 「きじゅつきごう」	、。，．・：；？！゛゜´｀¨＾￣＿ヽヾゝゞ〃仝々〆〇ー―‐／＼～‖ ｜…‥
学術記号 「がくじゅつきごう」	＋－±×÷＝≠＜＞≦≧∞∴♂♀∠⊥⌒∂∇≪≫√∽∝∫∬∈∋⊆⊇⊂⊃ ∪∩∧∨⇒⇔∀∃
一般記号 「いっぱんきごう」	＃＆＊＠§☆★○●◎◇◆□■△▲▽▼※〒→←↑↓〓♯♭♪†‡¶
単位記号 「たんいきごう」	￥＄¢£％℃°′″
ギリシア文字 「ぎりしあもじ」	ΑΒΓΔΕΖΗΘΙΚΛΜΝΞΟΠΡΣΤΥΦΧΨΩ αβγδεζηθικλμνξοπρστυφχψω
ロシア文字 「ろしあもじ」	АБВГДЕЁЖЗИЙКЛМНОПРСТУФХЦЧШЩЪЫЬЭЮЯ абвгдеёжзийклмнопрстуфхцчшщъыьэюя
括弧記号 「かっこきごう」	‘ ’ “” （） 〔〕 ［］ ｛｝ 〈〉 《》 「」 『』 【】
「わ」	ゎヮ
「い」	ゐヰ
「え」	ゑヱ
「ぶ」	ヴ
「か」	ヵ
「け」	ヶ